昭和43年度卒業記念アルバム

小樽商科大学

資沿
料革

小樽商科大学

第十六回卒業記念

アルバム

1968

小樽商科大学

卒業記念

昭和43年

小樽商科大学校歌

時雨音羽作詩
杉山長谷夫作曲

金鱗をどる渺々の
あけぼの称う波の唄
エルムの花に若人の
涯なきのぞみ数々秘めて
夢うるはしの緑丘よ

夕陽映ゆる白樺の
梢をわたる風の唄
慈愛の山のふところに
銀翼みがき駿足秘めて
唄ほがらかの緑ヶ丘よ

蒼穹はてず道つきず
はるかに仰ぐ北斗星
栄冠迎ふこの腕に
飛躍の力ひととき秘めて
花咲き匂ふ緑ヶ丘よ

健腕拓く五大州
凱歌はあがる我母校
感激みてる若人の
血潮に清き教へを秘めて
春永遠の緑ヶ丘よ

緑丘を巣立つ若い皆さんに

実方　正雄

友情というものは、お互いに対等な人間の間の深い心の交わりである。それは、お互いに信頼し合い、助け合い、慰め合い、相手の幸福や成長や発展などを心から喜ぶことのできる寛容な連帯感に満たされ、それによって、自分みずからも大きく成長する、といったようなものを内容とするものだといってよい。こうした友情が結ばれたものが、ことの「友」である。皆さんは、この学園に在学中、多くの友を得られたことと思うが、こうした友情を生涯持ち続けて頂き度い。私も、皆さんとの間に、四十年以上の年令の開きはあるけれども、こうした友情がかたく結ばれた「老いた友」としての交わりを、皆さんと一生続けてゆき度いと心から願っている。

皆さんのなかには、この学園に在学中、楽しく講義を受講し、学問の研究に専念し、人間形成に励んでこられたものもあったことと思う。あるいは、運動に熱中してきたものもあったであろう。いや、むしろ、大学に対して不満、不平を持ち、不信感を抱き、あるいは、積極的に、いろいろな要求を突きつけて、大学と争ったものさへあることを否定しない。それは、いずれでもよい。しかし、私は、共同体があるべき緑丘学園のなかでのさまざまの生活を通して、何かの形で、皆さんが、誠実に生きる道を体得されたものと信じたく思う。そして、「老いた友」として、皆さんが、卒業した後、若いエネルギーを有効に発散させながら社会の進歩と前進、人類の平和と幸福のために、何かの役割を持ち、人間として生き甲斐のある道を歩んでゆかれることを、衷心から期待しているのである。

ただ、私は、皆さんと、「人間」というものについて語り合う機会に恵まれなかったことを淋しく思う。これは、限りない問題性を含んだ問題である。「あらゆる人間の知識のうちで、もっとも有用でありながら、もっとも進んでいないものは、人間にかんする知識であるように思われる」、とルソーはいっている。ルソーは、近代社会の父・人間解放の父といわれ、十八世紀中葉（一七一二―一七七八）のフランスの偉大な政治・法律思想家であった。その銅像は、多くのフランスの偉人達の永久の眠りの場所、パンテオンの丘の上に立っている。

このもっとも大切な人間性の理解の糸口として、私は、いい古された言葉ではあるけれども、つぎのパスカルの言葉を送りたいと思う。「人間は一本の葦にすぎない。しかし、それは、考える葦である。」人間は考えるという能力を与えられていることによって、それは、全宇宙よりも偉大である。しかし、か弱くわずかな力にも押しつぶされやすい一本の葦なのである。すなわち、自分で考えること、いい換えれば、考えることについての主体性を確立することに困難がある、という人間の本質を択へたものといってよい。ルソーは未来の社会を担う人間像として、「労働者のごとく働き、哲学者のごとく考える」というたくましい人間を期待していた。

皆さんは、はたして、今まで、主体性をもって考え、自主的に行動し、自律的に責任を感じてきたであろうか。民主的な精神的土壌に恵まれなかった私達日本人は、こうした点でとくに弱いといわれる。私は、明るい社会を築くために、若い皆さん方が、主体的に考え、自主的に行動し、自律的に責任を負う、という人間としての根本的姿勢を終生堅持されることを、この機会にお願いしておき度いと思うのである。

考える主体性を

学長　安方正雄

加茂儀一　前学長

岡本理一教授（商業概論）

吉武清彦教授（社会政策）

藤井栄一教授（経済原論）

桑原輝路教授（国際法）

中川良延助教授（法学）

久野光朗助教授 簿記学

竹内清教授（統計学）

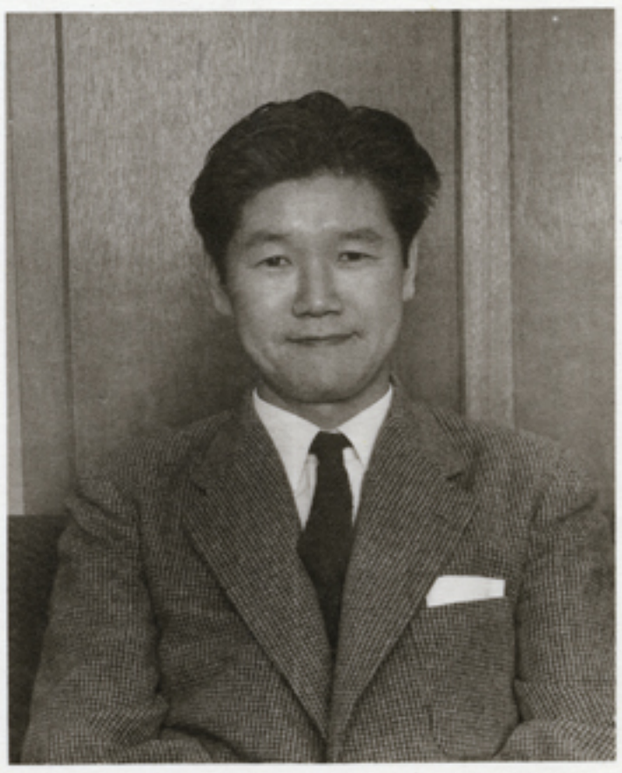
安孫子麟教授（日本経済史）

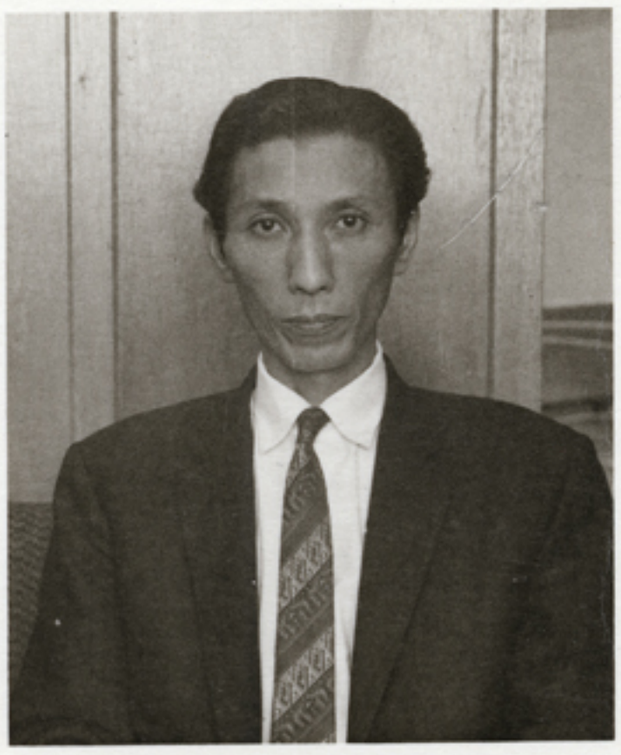
木曾栄作教授（商業英語）

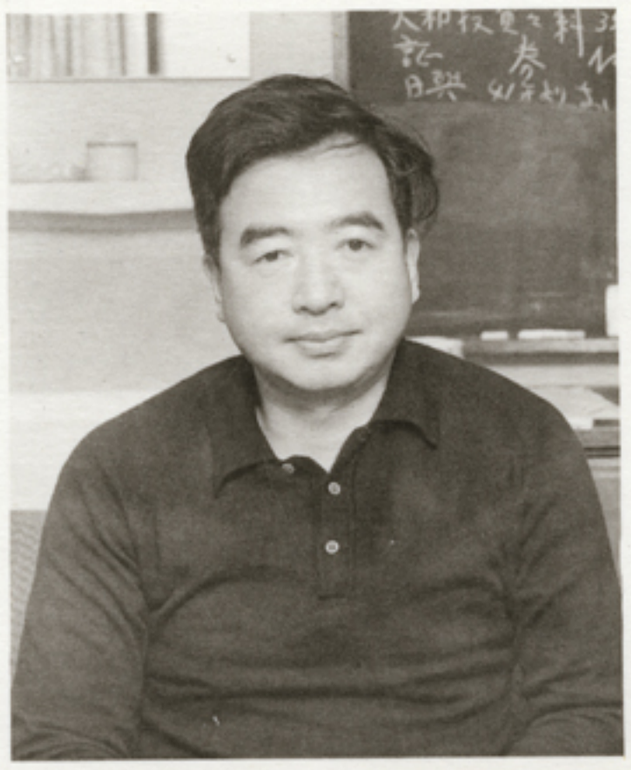
麻田四郎教授（国際経済論）

進藤寛助教授（証券市場論）

恩
師







古瀬大六 教授
（管理科学生産Ⅰ）

穂鷹良介 助教授
（応用数学解析ⅠⅡ）

相原東孝 講師
（民法Ⅰ）

伊藤森右衛門 教授
（経営学）

武隈良一 教授
（数学）

松田芳郎 助教授
（計量経済学特殊問題）

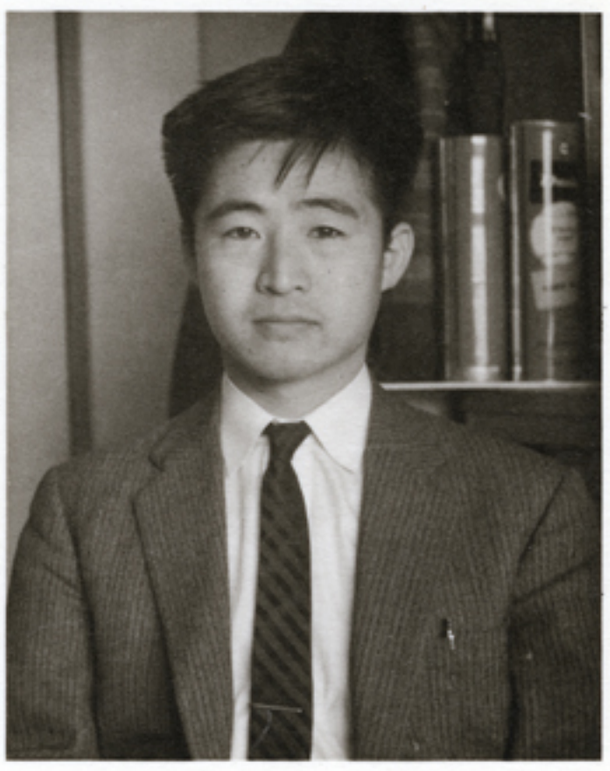
藤田芳夫 講師
（簿記学）

早見弘 助教授
財政学

戸島熈 助教授
（計算機プログラム）

西川欽也 教授
（管理科学経済Ⅰ）

沼田久 助教授
（応用数学 代数ⅠⅡ）



川村三千雄 教授
（哲　学）

田中昭徳 教授
（教育原理）

石河英夫 教授
（会計学）

杉山　登 助教授
（体　育）

斉藤　要 教授
（商品学）

篠崎恒夫 助教授
（工場経営）

~~鈴木満直 助教授~~
~~（証券市場論）~~

漆崎健治 助教授
（金融経済論）

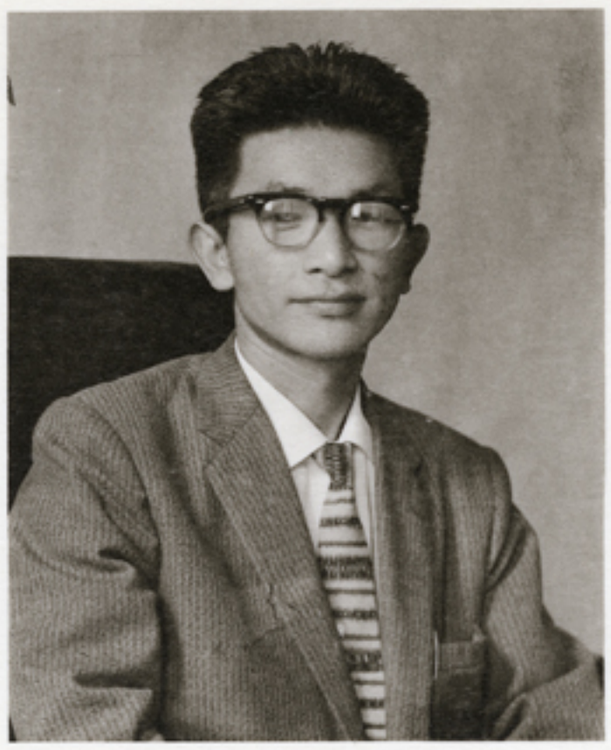
~~斉藤　武 講師~~
~~商法II~~

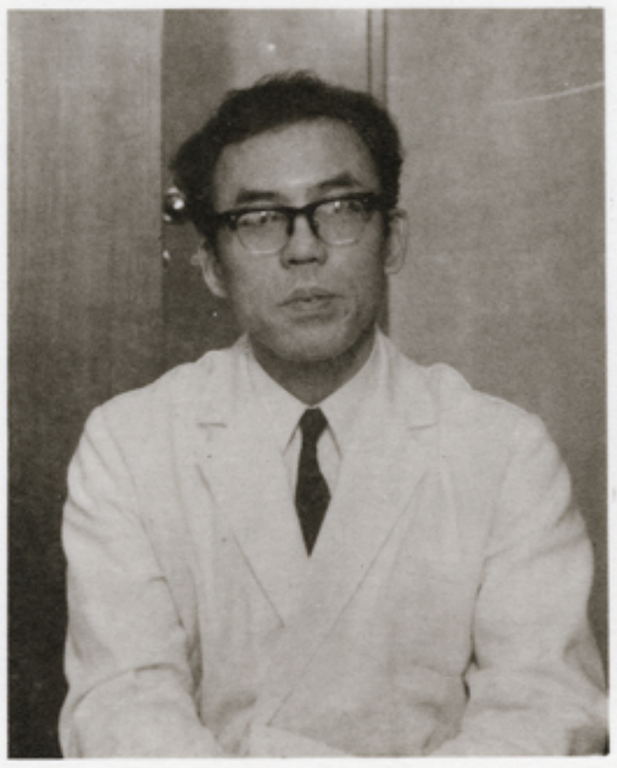
鈴木満直 助教授
（~~商~~証券市場論）

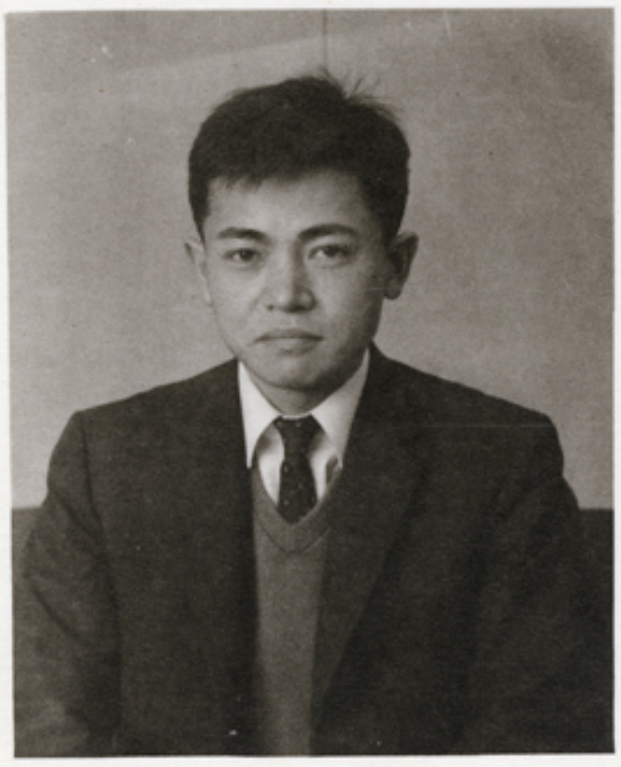
石原定和 助教授
（証券市場論）

~~漆崎健治 助教授~~
~~（金融経済論）~~

斉藤　武 講師
（商法II）







松尾正路　教授
（フランス語）

中川　勇　助教授
（ドイツ語）

北市陽一　助教授
（英　語）

野尻吉之進　講師
（英　語）

川上久寿　教授
（中国語）

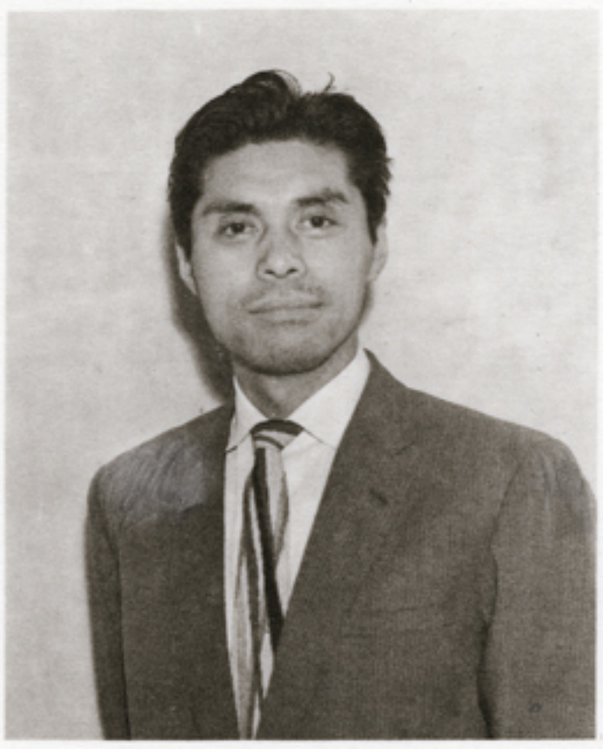
松本忠司　助教授
（ロシア語）

高島　稔　助手
（英　語）

飛田茂雄　助教授

脇田　勇　教授
（英　語）

北村正司　講師
（英　語）



浜林正夫　元教授
（経済史概論）

久木久一　元教授
（保健論）

馬場道夫　元助教授
（心理学）

広田二郎　元教授
（日本文学）

久納泰之助　元教授
（英文学）

一色忠良　元助教授
（スペイン語）

太黒マチルド　元講師
（フランス語）

宇賀地正明　元助教授
（英語）

W・W スミス　元講師
（英語）

金巻賢字　元講師
（商業科教育法）

室谷賢次郎　名誉教授
（経営学）

実方謙二　元助教授
（商法）

丘を去りし師

小樽の未来。商大の未来。。。

飛田茂雄

市民自ら斜陽の町と、やや自嘲めいて呼びならわしてきた小樽であるが、どうしてどうして、ここ数年の発展ぶりはめざましく、函館本線の国道との立体交差や電化の完成が象徴しているように、大正時代の、情緒的ではあるが雑然として非能率的な姿は急激に失われ、近代都市化が着々と進行しつつある。やがて札樽バイパスや銭函副港の建設計画も実現するだろう。これからは対ソ貿易の発展や、流通機構の改革などに伴なって、商業都市小樽の本質的性格と、どう変えていくかが市民の大きな課題となるだろう。

わが商科大学も、このところ急速に大正時代の衣を脱ぎ、新たな装いを見せつつある。建物ばかりではない。教官も昭和生まれが圧倒的に多くなった。そして大学の性格も徐々に変りつつあるようだ。（われわれ門外漢にはチンプンカンプンの記号ばかり並んでいるころごろの『商学討究』はその象徴か？）やがて大学院もでき、学内での学者の拡大再生産も可能になるだろう。そして二十年、三十年後……。北海道はきっと学者と学生の天国になるだろう。道内各地に一流の芸術大学が、航空大学が、国際大学ができる。そのころ小樽は、かりに問屋や軽工業等々は衰退したとしても、原子力船時代における北洋最大の港として、日本の貿易、産業、交通等にきわめて重要な役割を負うことになるだろう。その小樽に、国立の商船大学、あるいは商船学部や海底産業開発学部を含む海洋大学ができても不思議はない。わたしは、いっそー商船業界をリードする緑丘人もおり、市内には国立の海員学校もあることだし　いまから小樽商科大学商船学部増設をめざして全道あげての猛運動をおこしたらどうだ、と数人の教官仲間に言ってみたこともあるが、だれも笑って相手にしてくれない。まあ工業大学ひとつ造るより大変な仕事だから、たわけた話と思われるのも無理はない。だがそんなことより、この変動する社会のなかで、いったい商大はどうしたらいいのか、学部をうんと増加したほうがいいのか、むしろ小規模なまま密度を高めていったほうがいいのか、こいつはひとつ卒業してい く諸君にじっくり考えてもらいたいものだ。

Green Hill Souvenir Song

Text by J.A.Degen

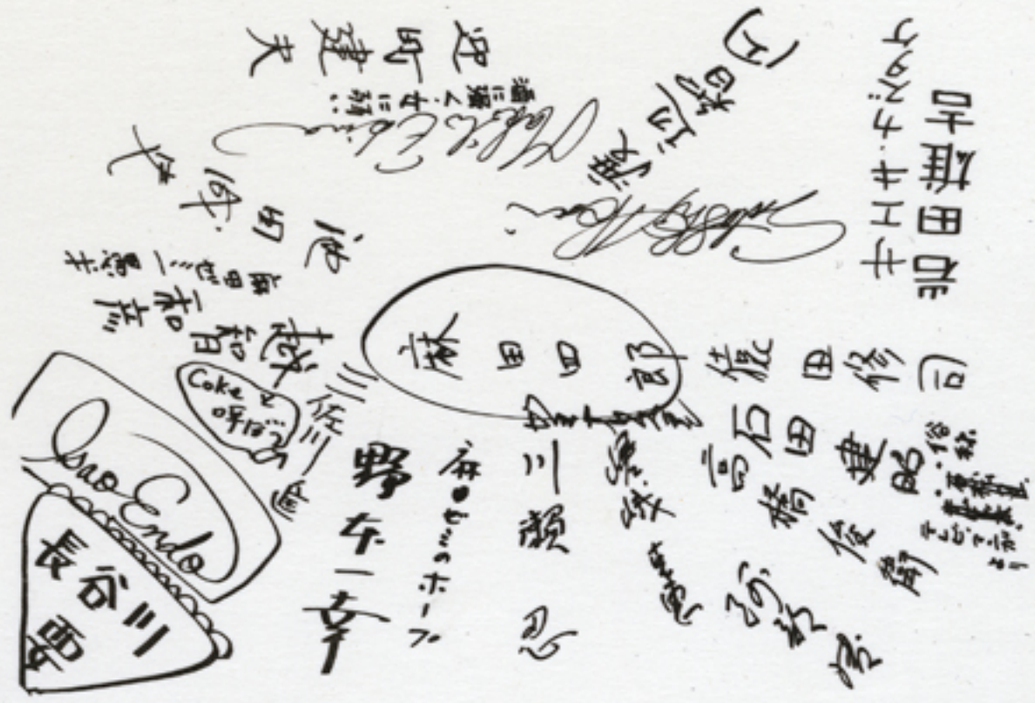
When I came, When I came to Otaru my heart was swelling high
Up there in Midorigaoka you will find the reason why
When I came, When I came to Otaru my heart was swelling high

With the beautiful Otaru Shodai very soon in love we fell
But with kind sensei's and the cherry-trees and the Otaru bells as well
With the beautiful Otaru Shodai very soon in love we fell

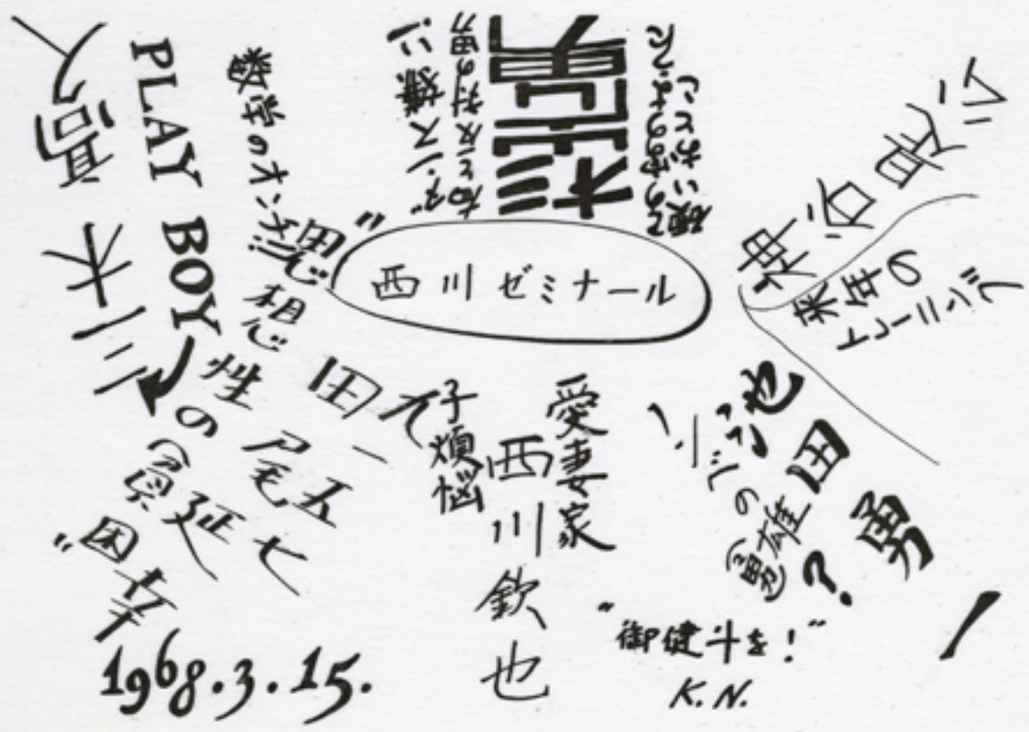
We have learnt up here so many things Commerce and KOREPON
Philosophy and sports spirit and many a cheerful song
We have learnt up here so many things Commerce and KOREPON

When we leave, When we leave we shall never forget all the happiness and joy
Of Otaru Shoka Daigaku life it's a wonderful life of Boy !
When we leave, When we leave we shall never forget all the happiness and joy

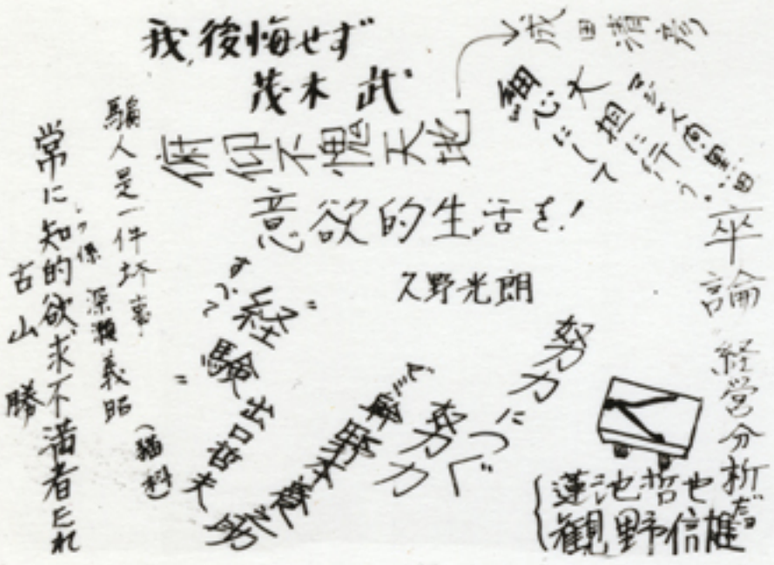
麻田ゼミナール



西川ゼミナール



岡本ゼミナール



久野ゼミナール

進藤ゼミナール

人間の事柄に関しては、笑わず、泣かず
憤らず、理解すること。(スピノザ)
守山昭男

改革に対する情熱を失うなかれ
進藤寛

我は山の子
海の子
人間の子
スズキコウジ

中川ゼミナール

とにかく四年間が経った….
荒木征一

真実を求める眼は
若く美しい…
中川良延

1967 12/1

伊藤ゼミナール

浜林ゼミナール

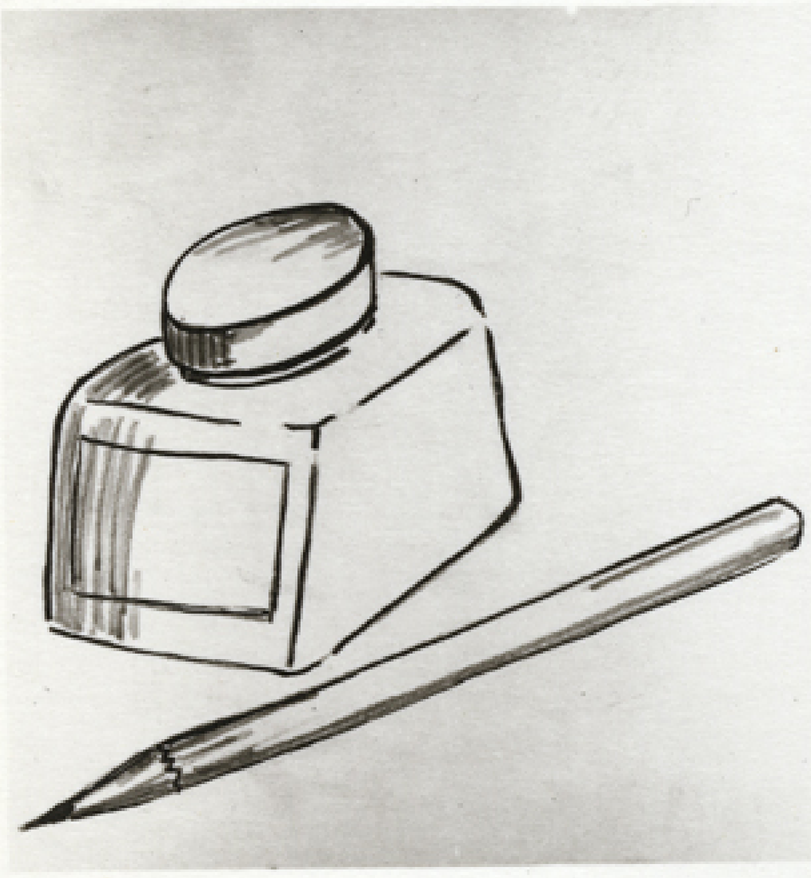
尾田将公
吉田史弘
吉田　明
津島貴生
堅谷寿夫
田中良定
田中　郭
執行俊克
酒井公平
及川　智
村田裕一郎
宮崎武則
来正秀樹
菊池国雄
金吉誠之
平山幸吉
江良雄一
秋本　勉

現実を通しての理想

石河英夫

鈴木　修
水尻賢治
佐藤克己
斉藤孝次
斉藤博光
斉藤英彰
長田知也
野崎莞二
内藤邦崇
小柳健佑
越山　毅
金沢正俊
池田勝利
本間雅夫

石河ゼミナール



斉藤ゼミナール

不可解
西山康雄

信念としての夢あるところに
幸あれ!
斎藤要

克己（カッコ）
カッコカッコの努力……何ともならぬ.
改永

篠崎ゼミナール

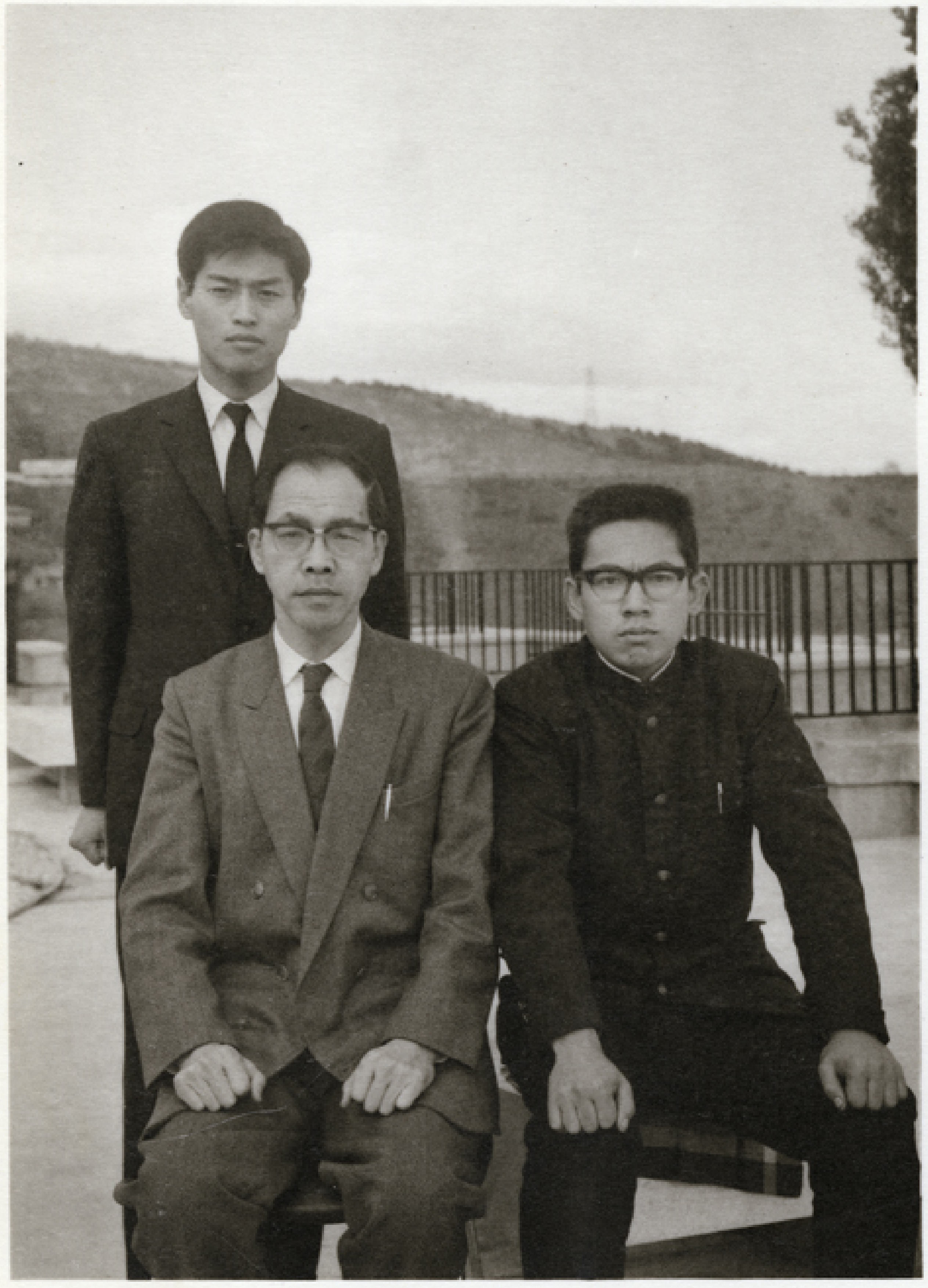
主人公
篠崎恒夫

まじめにやれよう!

下僕
柴田哲

ヒッピー万才!
片野幸正

桑原ゼミナール



武隈ゼミナール

Même les plus excellents esprits auront besoin de beaucoup de temps et d'attension ..... Descartes

武隈良一

孟子曰
居天下之廣居立天下之正位
行天下之大道得志與民由之
不得志獨行其道富貴不能淫
貧賤不能移威武不能屈

城崎征二郎

雲に隠れし剣ヶ峰
峰より出ずる清水の
冷たさきさに快よし

半田豊

国際法ゼミナール

1967
12/5

『サヨナラ』と失なうことだけが人生です。
K. Akagi

我等のアイドル
桑原輝路

微笑みは誰にあげるの？
さし向かい
KURATA

広大なる宇宙で八十万年后の世界から自分をみれば何が残るか？
花井正明

誠実一路
倉田勝弘

12月6日現在
未だ卒論完成の目度つかず!!
渡辺誠

學びて思わざれば罔く
思いて學ばざれば殆うし
安孫子麟

我四十にして立つ
心変じて三十にして立つ
カトウヒロシ
加藤博

皆の衆勉強しろよ
佐藤

安孫子ゼミナール

古瀬ゼミナール

better half ハ電算機デ・秦

If winter comes,
can spring be far behind?

Kunio Takahashi

前進
前進、後退
植村

Where there's a will
there's a way. 古瀬
H. Kamada.

廿年後の
再会を期して
諸君を送る

引
強い意志と弛まぬ努力
鷹木真敬

[illegible]

竹内ゼミナール

E(佐藤幸雄)=E(酒)+E(学問)

一生勉強をする [illegible]

桃栗3年
柿8年。ダルマ
は9年人は一生
佐藤雄一

V(試)=気分屋?
今更いうことなし 斉藤

一生勉強を
竹内
清

一生忘れられません [illegible]!!

[illegible]

若人逍遙の歌

高島茂作詞
宮内泰作曲

琅玕融くる緑丘の春曙を彷徨えば
浪慢の靄に街沈み風悠久の言葉あり
瀾朶の桜花吹雪つゝ、慥たゞしくも逝く春の
伝統ふるき学び舎に展ける海の涯しなき

夏白樺に囁やきてハイネの詩を口誦む
眉目美わしき眠差の又なき時のひとおしき
断崖落ちて波砕けオタモイ遠く帆走れば
小樽の嶺々の夕あかねゆる北斗に嘯ぶきぬ

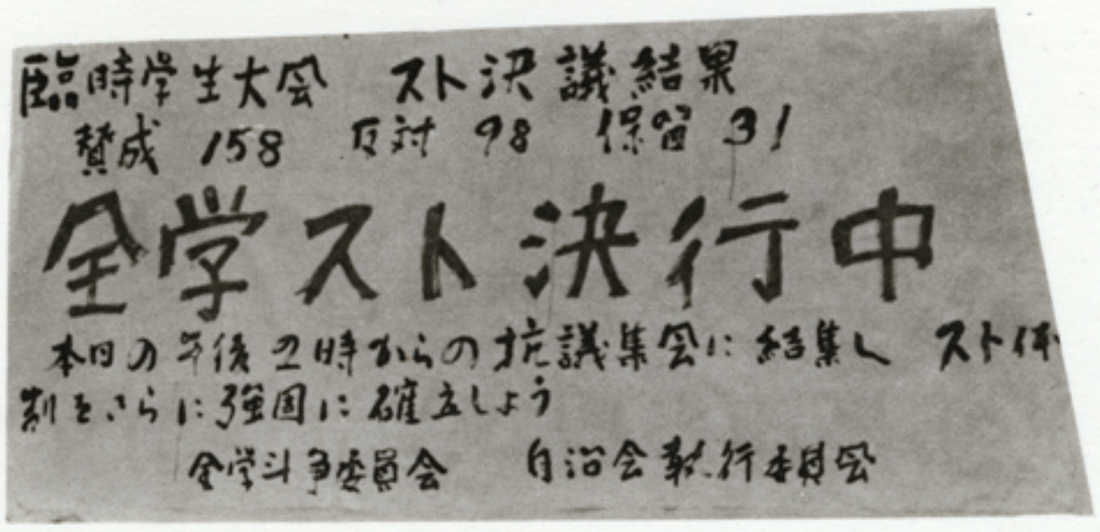
秋蕭条の想い濃きポプラに懸る雲消える
流転の行旅夢に似て悩みの思惟を誰か知る
感傷笑う事勿れ桜が丘にたゞずみて
泪滂沱と憂愁の落葉の行方哲うかな

永雪海に傾きて月寒ければ繙とかん
海冥行路遠けれどわれに港の乙女あり
流星落ちて影もなし行く青春の足音に
生命を惜しむ若人は永劫の杯酌まんとす

ばまれる学生の自治
大学問題特集
The Ryok
礎
ISHIZUE
寮祭
第7回
小樽商大
寮闘争さらに前進
大学側ついに折れる
炊婦闘争の結果と展望
A 炊婦闘争の位置づけ
大緑丘新聞
中国核実
—それは果して
倒錯した情況が羽田を私は
11・12 羽田ルポ
6.15 あれから6年
小樽商大緑丘新聞
発行所
小樽商科大学
緑丘新聞会
小樽市緑町5丁目番外地
電話代表 ⑧1101
内線 229（新聞会）
された大学の自治
早稲田を守れ！
学園闘争の転換点
転機に立つ大学
緑丘新聞 二五〇号四〇周年
第15回
緑丘
6月30日〜7月3日
ベトナム
仮眠を破るのは誰か
第十四回緑丘祭をむかえて
実行委員長
現代思想シンポ
テーマ：現代をいかに生きるか
東北・北海道
ックゼミナール大会
8月1日—4日
人間の解放と創造のために
サマーキャンプへ多数学友の参加を
緑丘文学
争を勝利的に遂行せよ！
日韓粉砕への道
第14回緑丘祭を成功させよう!!
行動せよ!! 絶えざる自己否定をこめて
緑丘祭日程
6月24日(金)〜6月27日(月)
緑丘祭実行委員会

全学ストライキ

一九六六・一〇・二一



サマーキャンプ

選挙風景

生協売店

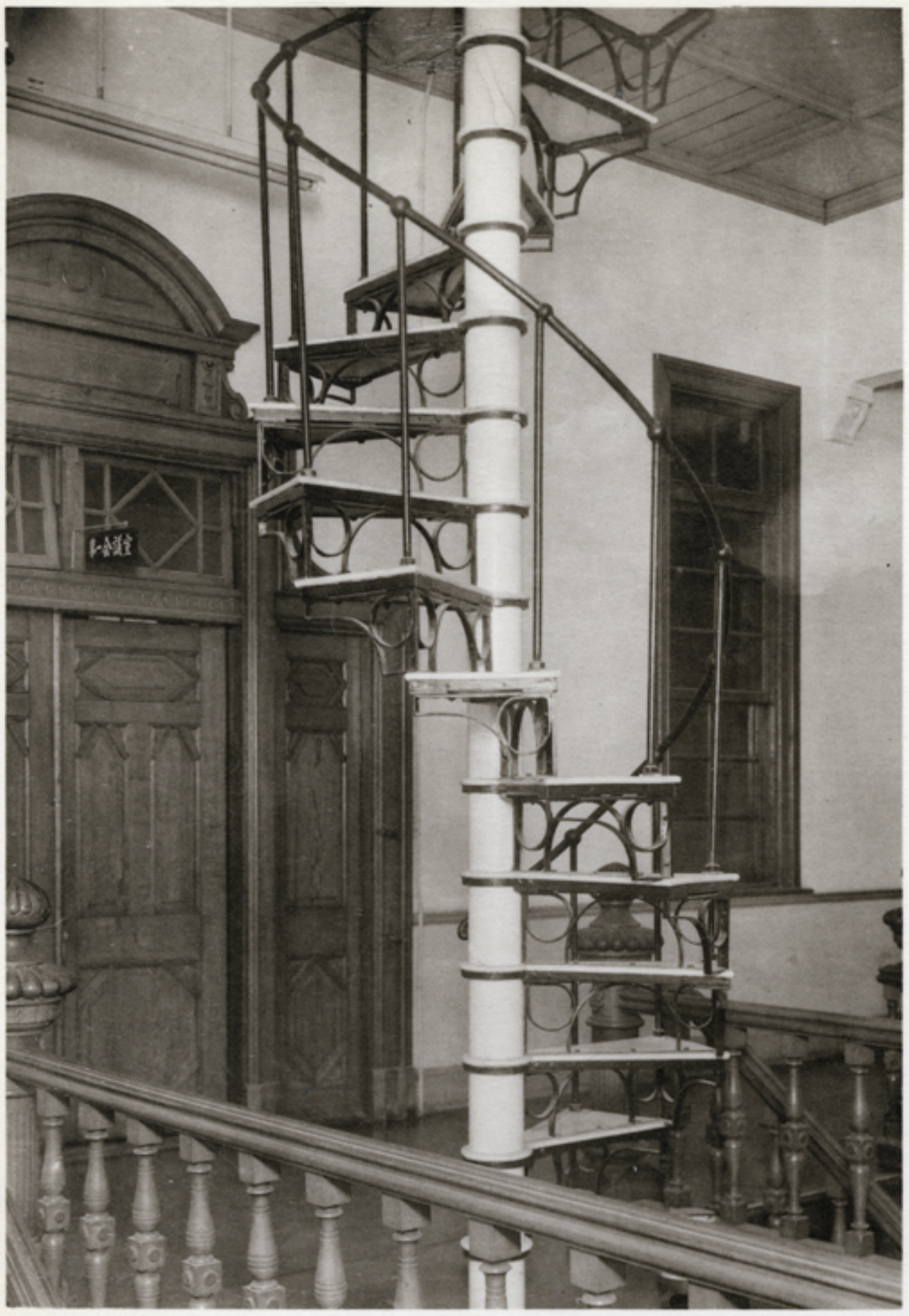
演劇公演

地区体

おどる…

「…その学校は、落葉松に蔽われた山の中腹を切り崩して、かなり広い敷地を取って建てられてあった。校舎は薄い緑色に塗った木造の二階建で、遠く海に面していた。建物の裏手に三つの棟が山の方に伸びていた校舎の主屋の中央は三階の塔になっていた。その真下の玄関を入った所のホールには、平行した二本の階段があってそれを登ると、更に二階から三階の塔に登るとラセン形の鉄製階段が半ば装飾の役としてハリガネ細工のように取りつけてあった…」

（伊藤　整「若い詩人の肖像」）



図書館

２２０番教室

対面式

挑戦状

北大応援団長

エール

残念か
いまははやー
こっぱみじんに打破り
勝利の栄冠我にあり
残念か残念か
残念なら又来んせ

「残念か」

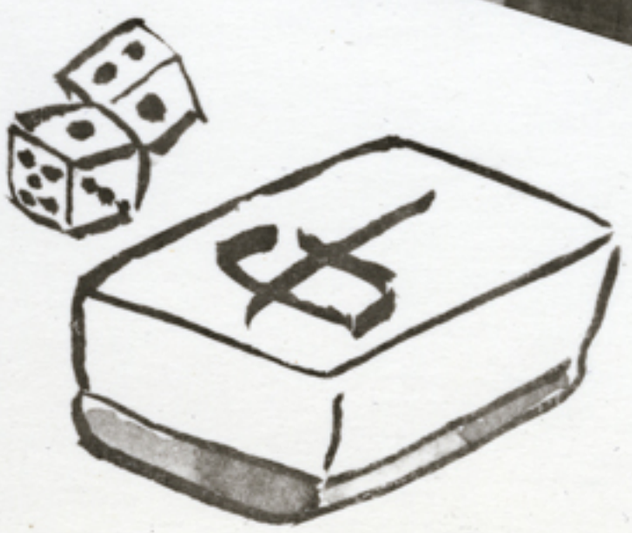
寮祭

コンパ

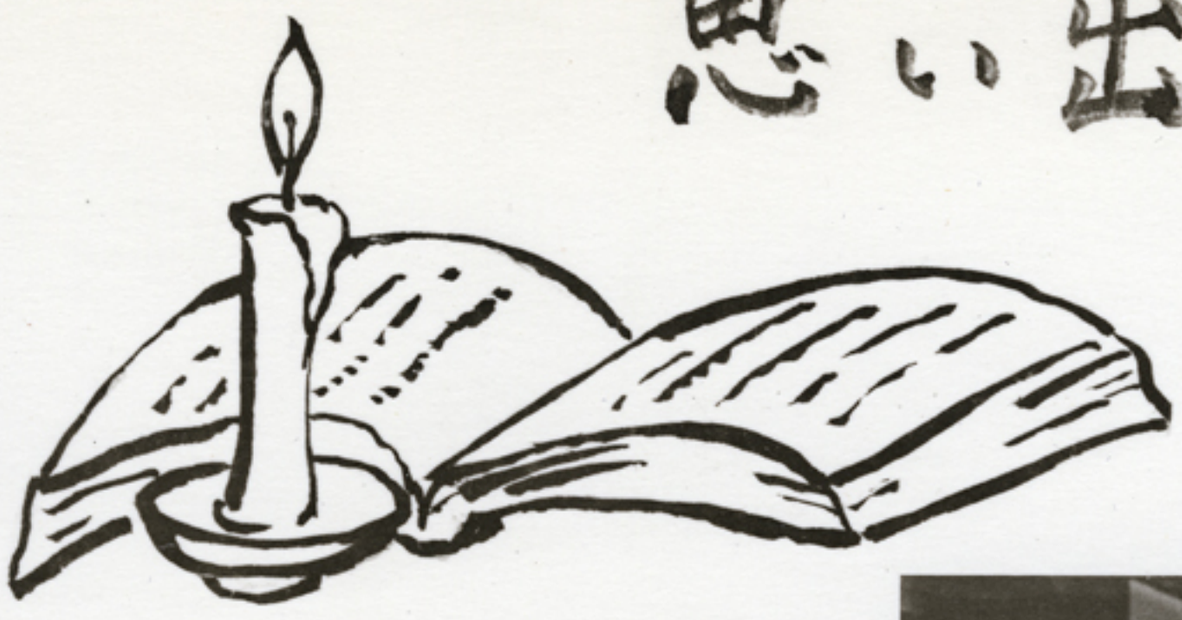
丹前音頭

演劇

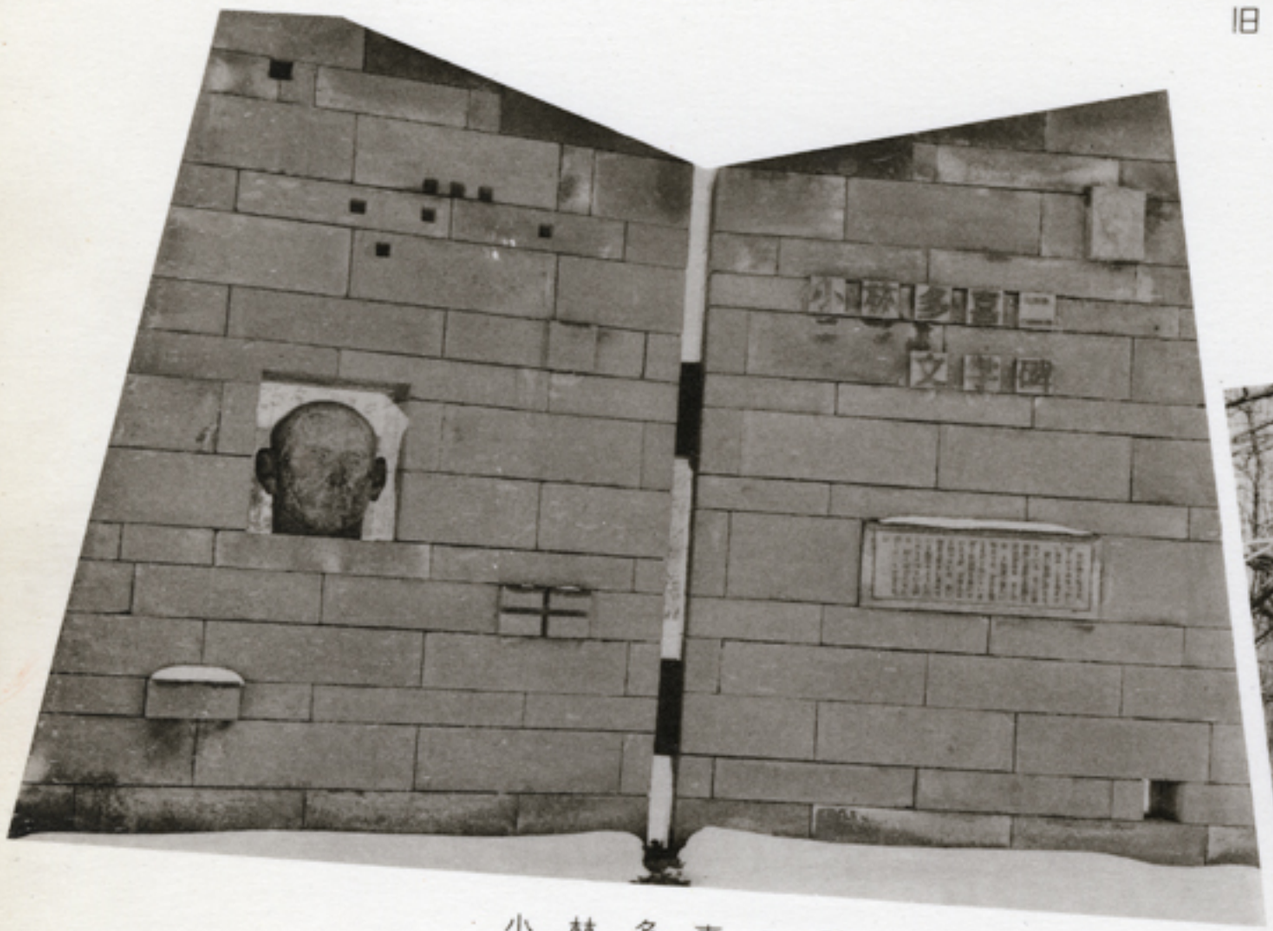
ストーム



思い出



旧図書館



小林多喜二碑

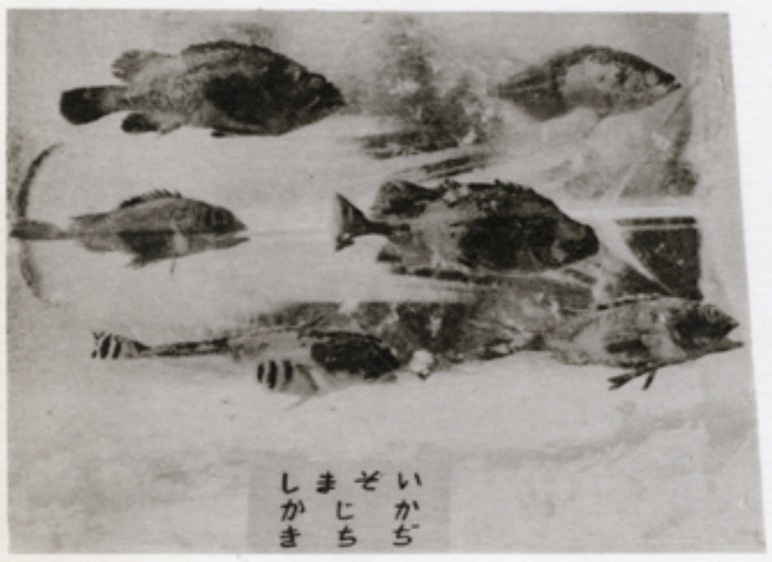
地獄坂

学園より小樽の街を望む

天狗山のふもと

おたる

雪まつり



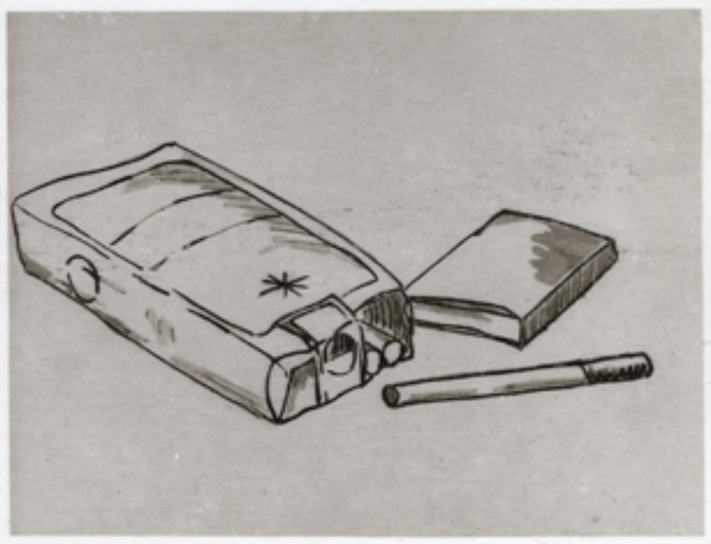
小樽駅

展望台より

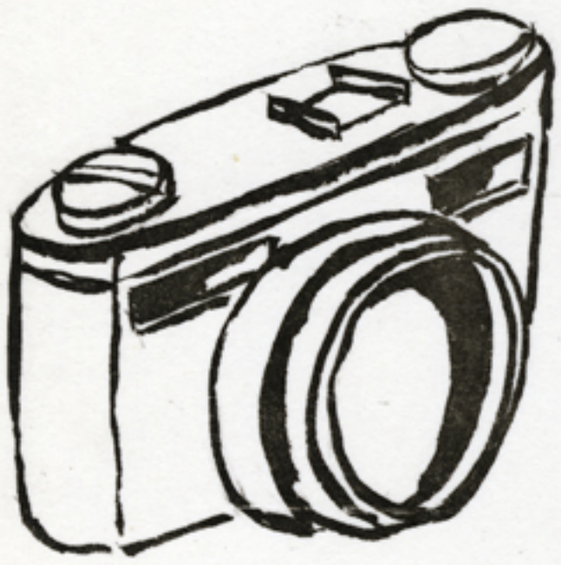
生協

新聞会

国際問題研究会



文連



写真部

演劇部

映画研究会

文芸部

グリーン、ミル

尺八部

グリーンクラブ

レコード音楽研究会

E S S

将棋部

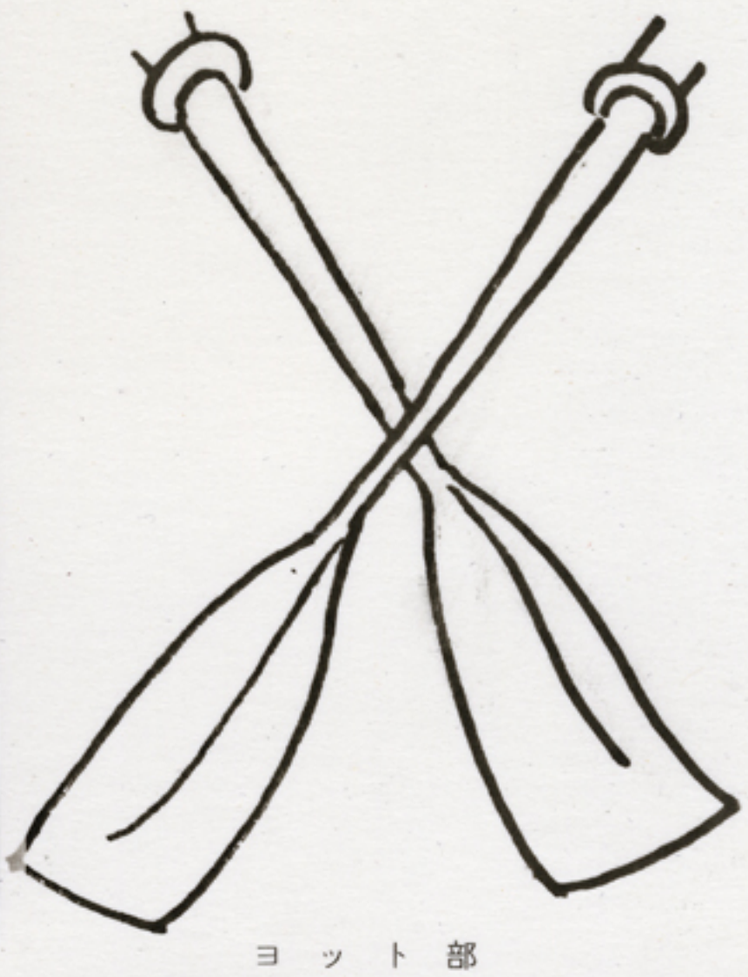
囲 碁 部

詩 吟 部

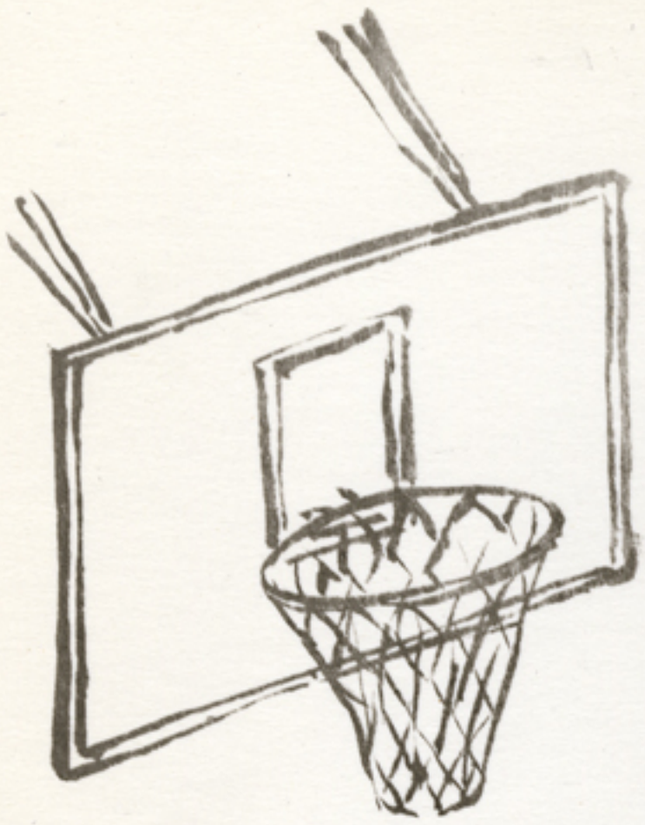
体　育　会

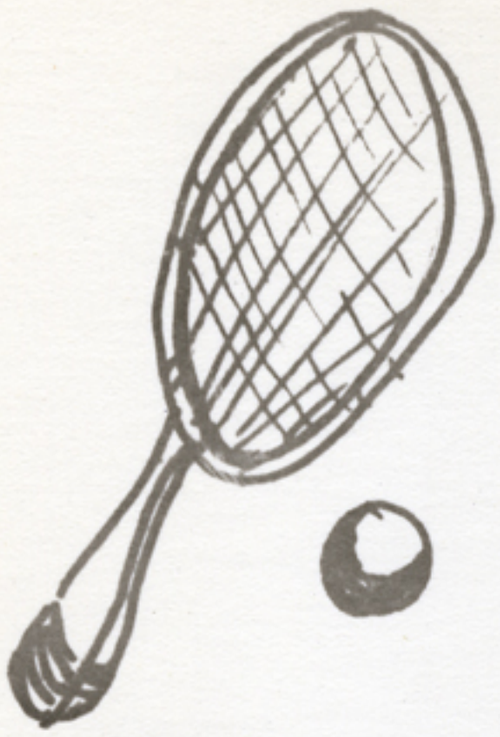
水　泳　部

ボ　ー　ト　部



ヨ　ッ　ト　部





硬式庭球部
軟

軟式庭球部
硬

野球部

野球部

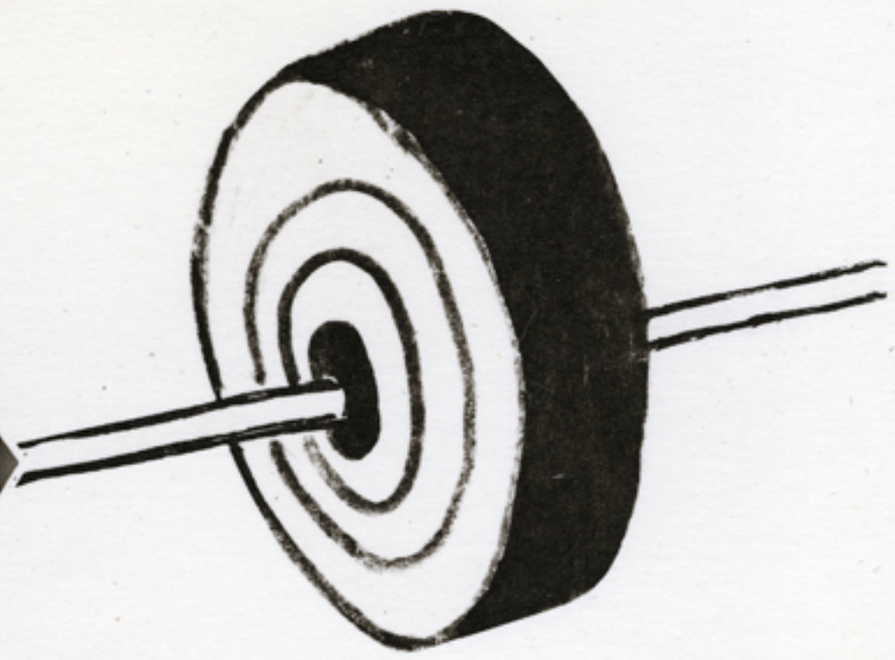
剣道部

柔道部

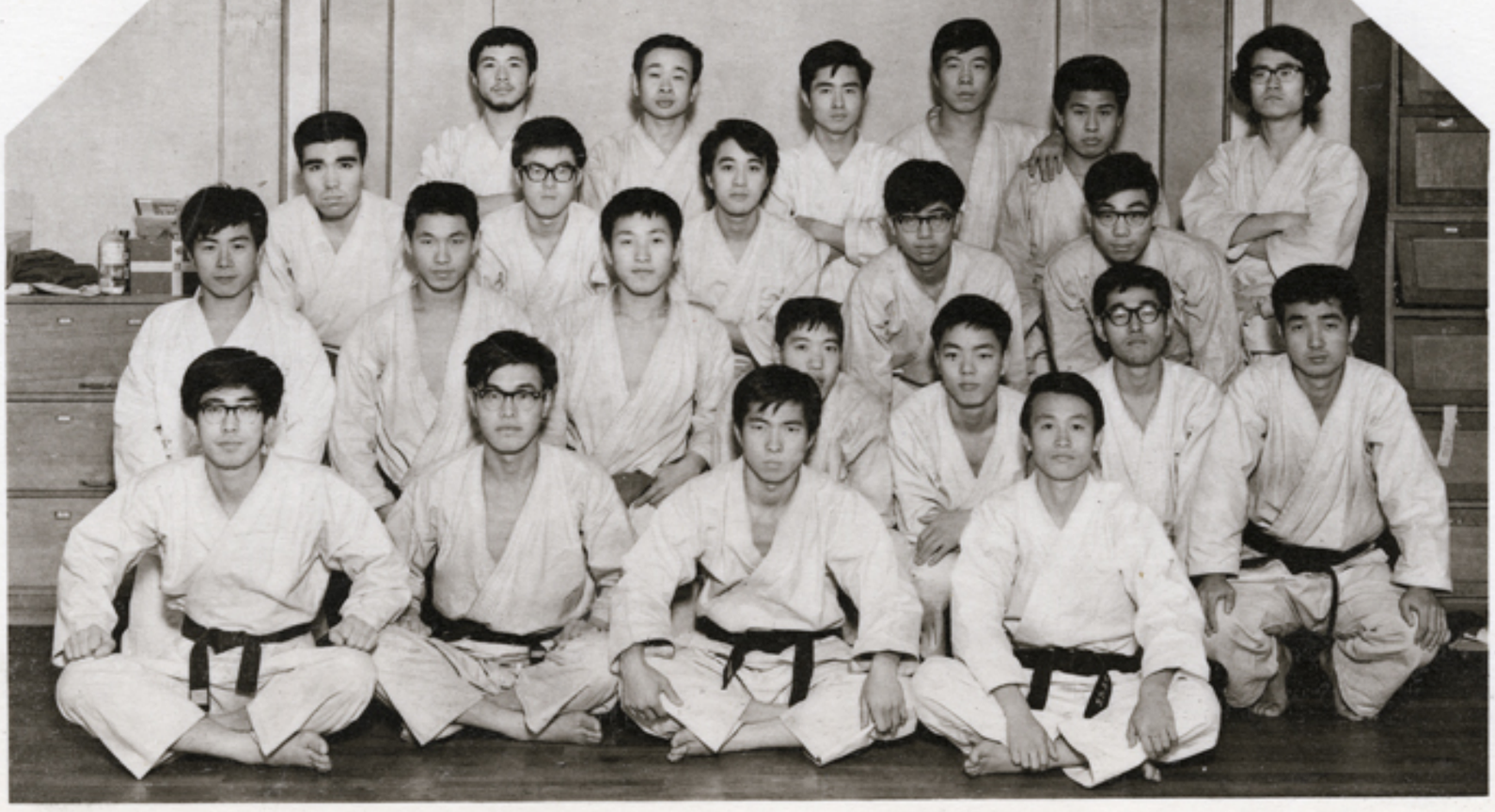
順道制勝

甲南

弓道部



空手部



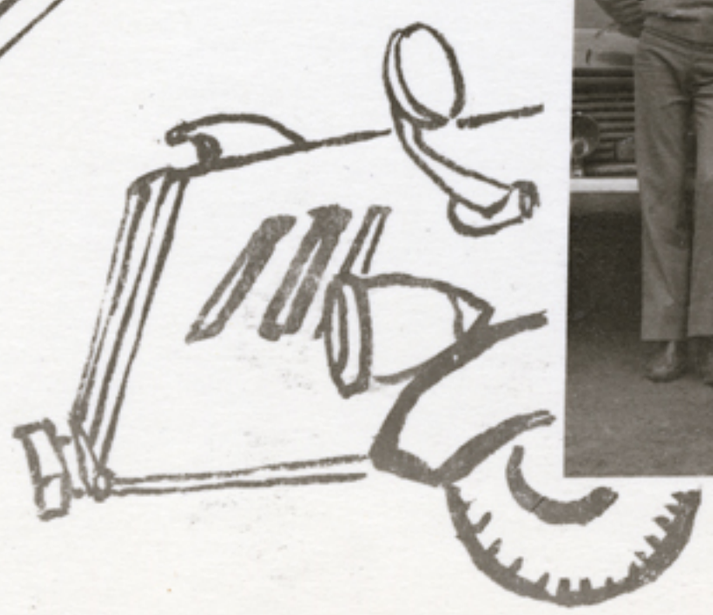
空手道場

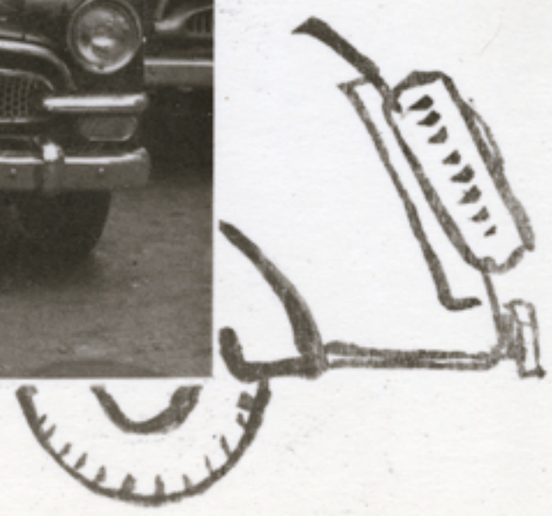
山　岳　部

スキー部

バトミントン部

自　動　車　部





インテリ・サラリーマン

松尾正路

卒業生と定年退職者。わずか十五日おくれて私も緑ケ丘を永久に下りてゆく。このメカニズムに狂いはない。だれもかれも、ある日、決められた時期に、かならず緑ケ丘を下りなければならない絶対性は、神や自然の場合とちがって、なんの神秘もない。神秘のない絶対、それはつまり絶対ではないということだが、絶対でないものが絶対力を持っといるとしたら、相対的絶対とでもいうよりほかはあるまい。それが国家や社会の従というものだろう。だが、従の絶対力は、これに逆らう者にだけ作用するのであって、適度のカネと良識の所有者にとって従の絶対力などはあれどもなきがごとしである。まともな学生は学則など知らなくてもすむ。現に私は日本国憲法の一行さえ知ってはいない。善良なる市民はむしろの受益者であり、従に保護されている。ブチブールジョワとはこういう私たちのことだろう。その平均的なタイプがホワイトカラーのサラリーマンであるとしたら、大学卒のインテリサラリーマンはいつも心の深部に十字架を持たされている。従の保護にもかゝわらず、自己と社会が何であるかを知り、その批判者として位置づけられている。大学はそのことを教えたはずである。

he

lost in a sombre wood
an athlete
given fame up on the hills
poplars, trembling, ocean-coloured
no
he could never have been--
brokeback
coughing blubbering strutting
spring has come spring is gone
poplars
of nineteen sixty-seven
'who have never been happy or good'
who knows ?
what they are
coming to
he has long been dead
hasn't he ?
sighs a doodlebug
in the hole.

Y. Kunoh

阿部　弘（岡本ゼミ）
〈札幌西〉・〈住友商事〉

持って生れた慎重さと野望がビッタリとフイットした感じの彼は、幼くして実業界への夢を抱き、商大入学後の四年間はまったく勉強一路に進んできた。アカデミックな学問はいうまでもないが、なかんずく実業界への洞察は学生らしからぬ（？）ほど深いものがある。大学時代学生服姿の彼をほとんどみかけたことがない。いつもキチッとネクタイを締め、ビタッと頭髪をキメていわゆるクールないでたちであった。就職も某商社に決まり彼の将来は夢多い。必ずや持てる力を発揮して多額の寄付金を胸に緑丘を車で訪ずれる日が来るだろう。（本多記）

阿部　清（麻田ゼミ）
〈旭川東〉・〈旭川信金〉

麻田ゼミきっての色男。その顔のもつ「対外的価値」を買われてゼミ幹をやっていただいた。そのソフトな声は定評があり、「麻田ゼミの阿部」と聞いただけで、飲み屋のオネエーチャン連中はシビレてしまうという。しかし「誘惑」多き中で己を守り、勉学に励んだのはご立派。郷里旭川に帰って、銀行勤め、彼のごとき「好男子」が道外に「流出」しなかったことについて北海道の全女性は涙を流して感謝しなければならない。（佐伯記）

赤井　慧（麻田ゼミ）
〈札幌東〉・〈拓銀〉

彼は麻田ゼミの切り札であり同時に商大の切り札とも言うべき勉強家であります。小生はあえて天才・秀才とは言いません。それは彼の普段をみている故そう思うのです。しかしこれは彼がガリ勉だと言う訳ではなく、むしろ見かけによらぬプレーボーイかもしれません。ダンスの上手な事は自他共に認める所であり、四年になるとマーシャンも覚え始めた様です。その他大ていの遊びなら知っています。これからも学問と遊びの両面で秀れた人物になる多くの要素をもついわば成長株ともいうべき人物である。（S・K記）

赤木　勝二（桑原ゼミ）
〈緑陵〉・〈大日本塗料〉

英智の塊りの様な体軀と、詩的な常に遠くを夢みるような容貌をもつ男、彼はまたいつも数冊の本をかかえていないと気のすまない男でもある。詩集とマル経、政治学の本を小脇に文明論に取り組む姿は真に大海の小舟の感がある。そんな彼の姿に母性本能を感じた乙女を振り切って邁進する姿、また逞しき限り。書を捨てて街へ出る日の彼の健斗を期待する。（花井記）

秋葉　啓（管理科学ゼミ）
〈紋別〉・〈新宮商行〉

自称「童貞会の会長」この手で、数多くの女性を泣かしてきた繊細なる神経を持った男。絶対に大学へ顔を見せない男。そしていくら飲んでも酔わない男である。パチンコに関してはプロ級、マージャン、玉突き、特殊ダンス等何でも出来る。来年は就職後、カナダヘ行き、さらに大きく、その天性の素晴しい人格を築くことであろう。（S・A記）

秋本　勉（伊藤ゼミ）
〈室蘭栄〉・〈明治乳業〉

四年間寮に住みつき小樽の赤い灯、青い灯を毎夜眺めその誘惑に負けることなくスポーツと学問を両立させた男。テニスにおけるそのネバりは相手に悲鳴をあげさせるのに十分。かっさらった賞状は数知れずとかこれからも牛乳を飲み、チーズをたくさん食べてがんばるだろう。（中川記）

青木　佑司（進藤ゼミ）
〈札幌旭丘〉・〈湯浅貿易〉

卒業を祝して餓鬼友の一人として貴殿に三戒の珍味を与えておく〃もしこれさえ忘れなければこの男に必ず道が開けるであろう。

ー、汝朝寝しておくれをとることなかれ！

ー、汝酒に飲まれることなかれ!!

ー、汝その他色々注意を怠ることなかれ!!

〃うらの声〃お互に失敗の連続だったなあ〃けどもう卒業かと思うと残念でならないよ。

浅井　肇（吉武ゼミ）
〈愛知一宮〉・〈東海銀行〉

〃海峡渡り〃の例にもれず彼も青春の敗残者。にがい思い出の一の宮を離れはるばる北海道へおおらかな北国の雰囲気の中で彼は目覚め学問に没頭することができたのである。彼は又最高を求める男。商大ラグビー部のレベルの低さ故ラグビーの道をあきらめた男。彼は又、カアちャんは要らない奴、とにかく四年間自炊したというのだからたいしたもの。又万一会社がつぶれる事があっても彼は心配要らない。「御用とお急ぎでない方…」てな調子で「ガマの油売り」をやれば良いのである。（T・O記）

荒木　征一（中川ゼミ）
〈静内〉・〈千代田グラビヤ〉

誰が決めたか電話の呼出。電話は男でお電話は女、もてるもてないすぐわかる。（注、ババアやおふくろからきてもお電話だよ）。荒木征一いい男、渥美清やハナ肇それよりちょっといい男。とまでいわれた通り確かに〃お電話〃は多い。と言っても軟派ではない。心に〃硬派の血が通っている。サマーキャン、文芸部、演劇、卓球と多士多済、エネルギッシュな活動を誇ってきた。その活躍ぶりは衆目の認めるところ。（藤の声ーー余りかけもちしたので中途半端だったんじゃない……）（高橋記）

出口　哲夫（久野ゼミ）
〈札幌啓北〉・〈同和火災〉

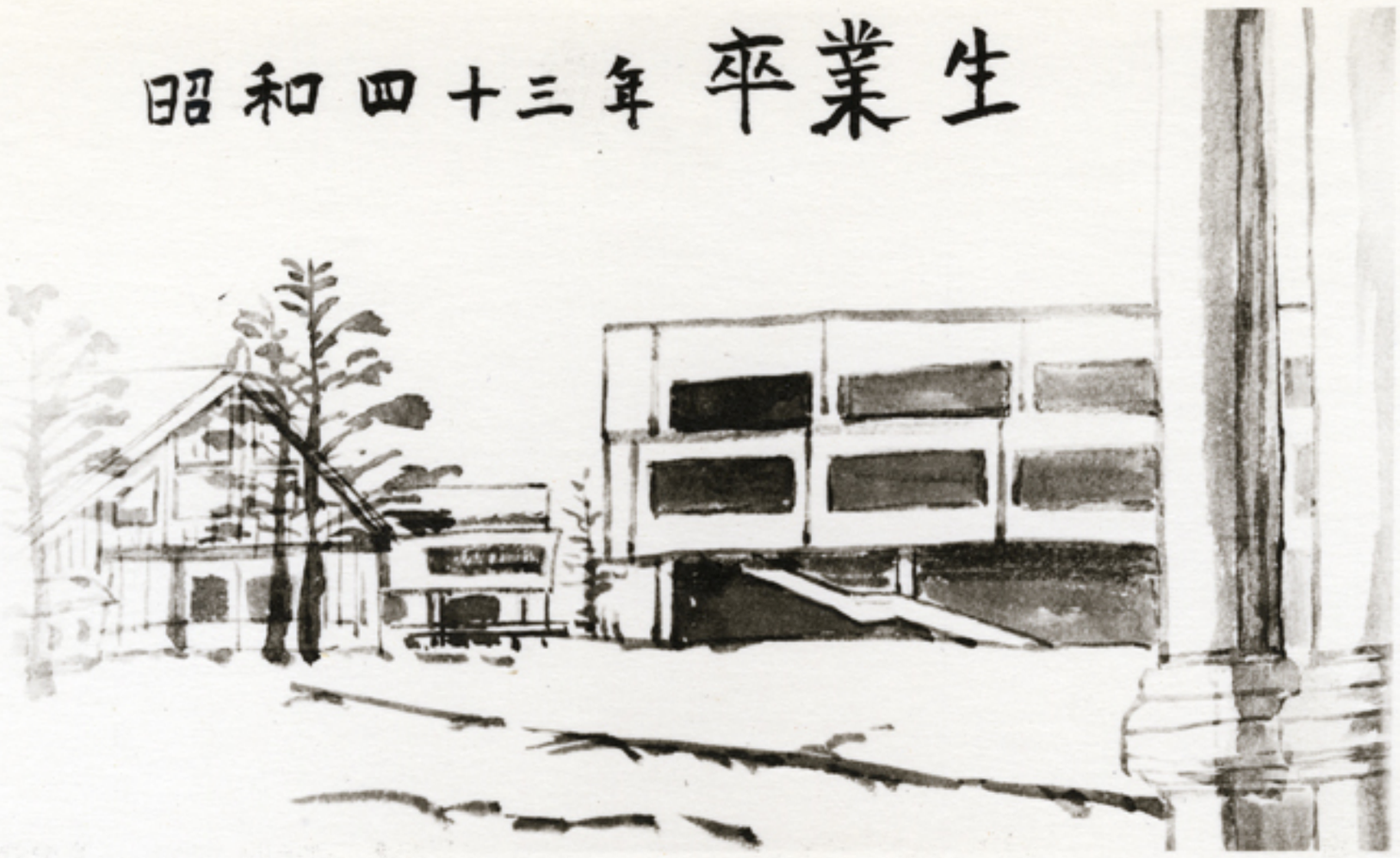
何を隠そう！

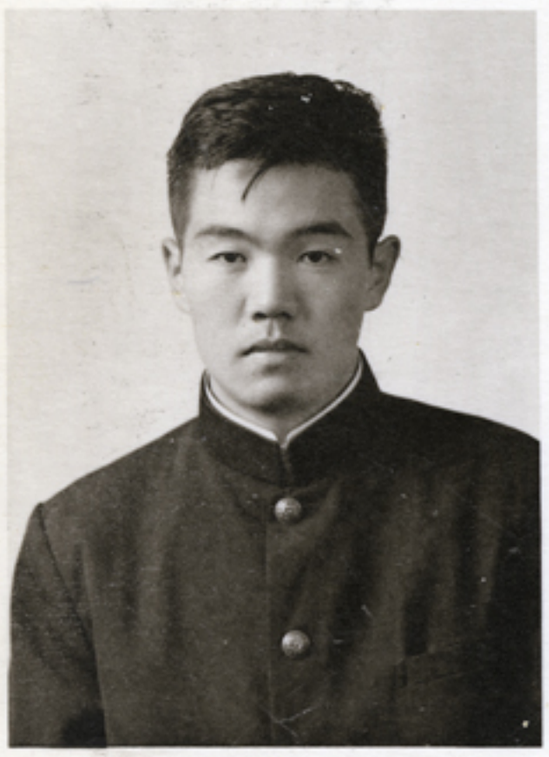
四年前星の如く緑丘に現れた頭脳明晰、中肉中背の厚顔の美少年こそ彼：かも知れない。時移りても頭のきれはますますさえるばかりである。物事をなすにも穏健、着実であるが、タバコの煙で輪を作っては人を煙に巻くという特技を持っでいる。無口な彼が口を開けば、ほとばしり出づる言の葉は機智と雅にあふれ意に満ちている。誠実、勤勉なる彼に幸あれ！（ああ苦しい！）（K・N記）

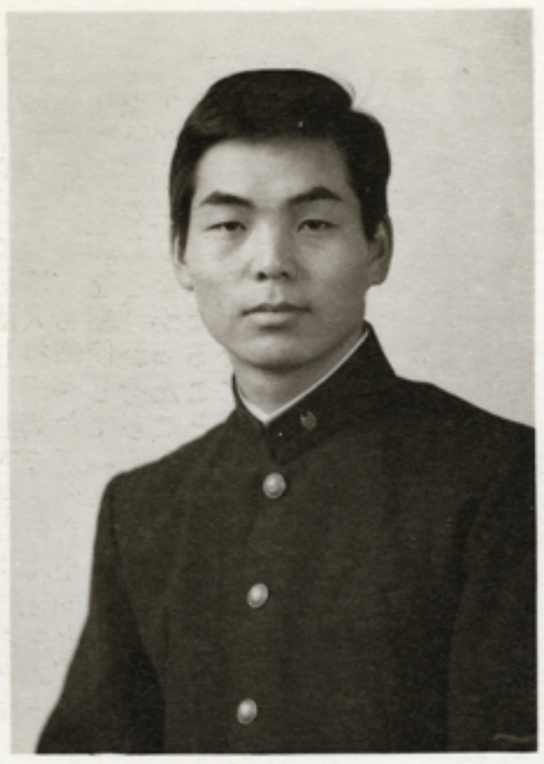
海老名　誠（麻田ゼミ）
〈札幌南〉・〈富士銀行〉

商大で一番やせてはいるが四年間の活動は精力的で何か内に秘めたものを感じさせる。ESA、AIESECの部長、委員長をつとめ、商大の名を日本にとどろかせた話は有名である。卒業後は、日本の経済は勿論、世界経済の舞台で活躍するのではないかとのうわさが学友の間でかわされている。今後社会人としての健斗を心から祈るものである。（池田成史記）

昭和四十三年 卒業生







飛鷹昌仁〈進藤ゼミ〉
〈旭川北〉・〈大阪商船三井〉

昔よくあった、あのセンチメンタルな文学少女の胸をときめかした、色白でスラリとした美少年を連想させる。それにプラス一見ニヒルなムード、それが彼である。ところがあにはからんや行動派である。泣かされた女の子も多いんじゃないかな。管理能力があってプロゼミ実行委員長をつとめた。それにまつわるエピソード数々あり、知る人ぞ知る。〈K・A記〉

平山幸吉〈伊藤ゼミ〉
〈釧路江南〉

長身で十分いい男なのにと本人はいう。美的感覚は主観の問題だからなあ、彼のあだ名はこの際言わぬ方がよいだろう。学校には一日も欠かさず来るのに教室で会った事がない。一体どこに居るのか。何のことたあない毎日、朝から晩まで俺といっしょにテニスばっかりしてたもんな。テニスに学生々活の全てをかけて四年間経った。本当にテニスを愛しスポーツを愛した彼に誰もが真のスポーツマンシップを見い出すに違いない。それにしても女と金にゃ縁がなかったなあ。お互いに。〈石川記〉

本多誠〈岡本ゼミ〉
〈札幌東〉・〈拓銀〉

名は人を表わすというが誠実そのものの男。真駒内の奥地から日の出と共に目をさまし、雨の日も風の日も緑丘に通った。岡本ゼミナールの模範生である。彼の今日はまさに努力の結晶である。しかし彼は利己的な勉強家ではない。勉学の傍ら四年間グリークラブに在籍し、合唱を追求し、女性を追求した人間味豊かな男である。四年目になってからは、可愛い後輩を連れて、軽いサイフをはたいて一杯屋で飲み交した思い出は一生忘れないね。本多君！〈金沢記〉

本間雅夫〈石河ゼミ〉
〈旭川西〉・〈不二家〉

おだやかな表情からは感じられない情熱とファイトを四年間野球にささげた様な好男子である。酒と読書をこよなく愛し、女性に感化されない。その完璧な態度は野球部全員の驚異のマトである。準硬式野球部キャップとしての手腕も高く評価される。今後の健闘を祈る。〈Y・H記〉

細萱英久〈中川ゼミ〉
〈上田〉・〈ホクサン〉

有終の美。否、三年になってからの精進ぶりは周囲の者をして驚嘆せしめた。この姿こそ彼本来のものだったのだ。一事に徹しきれるところが彼の良さ。この四年間、彼の生活は常にそうだった。〃こうと決めたら、まっすぐに……〃これまでもそうだったし、また今後とて変わることはあるまい。長野県出身、中川ゼミ。〈荒木記〉

池田勝利〈石河ゼミ〉〈川越〉
〈日本ビジネスコンサルタント〉

善人であるが悪い不平を良く言う奴。根が善人であるから、多少おどけては聞こえる。埼玉県川越の出身、ビリヤードにかなり熱をあげている不満分子。寮〈智明寮〉の不満分子の一員。物事をかなり分っているのに、口を出る言葉は裏腹。とにかく、良い奴だ。多少オッチョコチョイだがね。〈S記〉

池田成史〈麻田ゼミ〉
〈札幌南〉・〈北海道炭鉱汽船〉

変な男である。頭はすこぶる良いのだが、そう見せない。運動神経も並々ならぬものがあるのだがそうは見えない。良家の子息らしく物事にこだわらない。人の上に立つ事はあまり好まない様だがその素質は充分、中島中学、南高校〈札幌〉それに商大でずっと野球をやり、卒業後も続けていくのだろう。三年目の時にドイツへ渡ったが、英語もドイツ語も驚くばかりに卓越してびっくりさせられる時がある。五人兄弟で上は皆〃御姉様〃友達が何かと理由をつけて訪問したがるのも道理である。そんな訳で商大の中では少し〃オシャレ〃ではある。大人和不動とは彼の事であろう。でかい人物になる。保障します。二十年後に又逢ってごらんなさい。〈海老名記〉

池田勉〈中川ゼミ〉
〈富良野〉・〈興亜火災〉

出身は片田舎の富良野町、片田舎のまれにみる秀才であったらしい。それが都会に出てきたら、環境に対する順応がうまくいかず、〃おらが町の……〃といわれた期待を、いみじくも破りいつも一人孤独をかみしめ、アンビションを捨てて、テレビと親しむようになったと聞く。なるほどそういわれてみるとこの男この世に夢もチ望もないよとア〈ニ〉ヒル？な笑いを浮かべ、この世の疎外を一身に背負ったような顔をしている。この世はバラ色とあさはかな幸福感に浸っている連中からみるなら、この男この世のからくりを知っている、すばらしい男なのかも知れない。〈高橋記〉

池田勇一〈西川ゼミ〉
〈桜陽〉・〈日函〉

顔の割にはカッコのいい奴。彼を見るには遠くから見るに限る。コンパとなれば先頭に立って酒を飲むのも彼である。そのせいかどうかは分からないが管理科科ぜミで統計を落したのも唯一彼である。だが現在統計学の実力は№１であることは自他ともに認めるところ、パチンコ、マージャンはプロ級とか？〈神谷記〉

稲川正〈安孫子ゼミ〉
〈札幌南〉

通称イナちゃん。筋骨隆々たる男性そのものの体格を女性は見のがさなかった。あのゾゥ？サイ？いやクマの目。クマといえば彼は秋口になって月寒の山奥に秋眠をむさぼって我々の目の前にあらわれなくなったと思いきや、女性に関する古典第三巻五二章を完読。女性はますます彼にほれ、彼をはなそうとしなかった。ついに彼は来年も女の館に残って「女」を研究するとか ―彼の近況―〈大坂記〉

石田建昭〈麻田ゼミ〉
〈函館中部〉・〈第一銀行〉

〃山椒は小粒でビリリとからい〃の格言を地でゆく男。函館なまりでトツトツと弁ずる。あの決っして大きくない身体のどこにそんなエネルギーがひそんでいるのか。満身皆エネルギーの貯蔵庫らしい。努力家だ。コツコツと頑張る。野性味のある男らしい男だ。普通の女にャ彼の良さがわからぬ。パチンコは負け知らず。週に万単位を稼いだそうだ。それで勉強はしている。いわば彼にとってパチンコは勉強の合い間のレクリェーションらしい。銀行マンとして彼の真価が発揮されるのはこれからだ。愛称〃イシ松〃〃チビッ太〃。〈長谷川記〉

石川昇〈麻田ゼミ〉
〈砂川南〉・〈日本ペイント〉

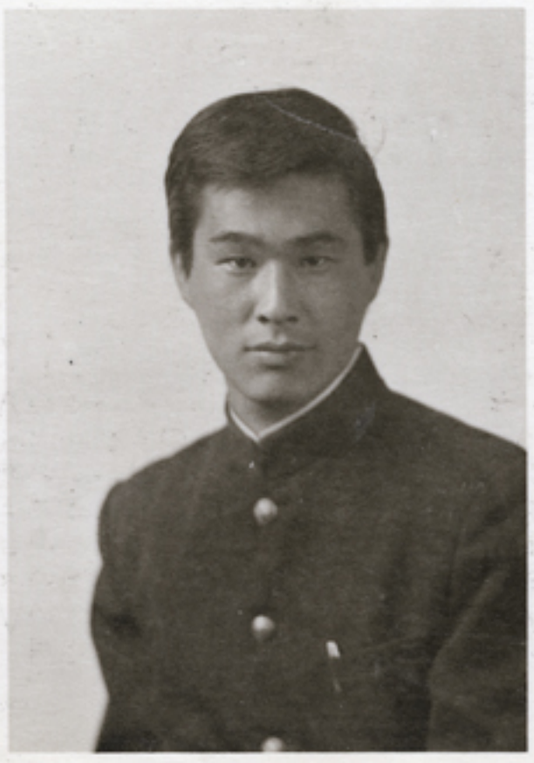
商大一のいい男と自負し、また雑学、生物学の権威であると自ら語る。いかんせんあと数センチ背が高かったらと人は言うが、着こなしの良さ、センスの良さは知る人ぞ知る。四年間テニスに明け暮れ、マネージャーとして商大を優勝に導びいた功績は高く評価される。彼の姿をみつけるには昼はテニスコート、夜はパチンコ屋へ行けとは定説になっている。孤独を愛し、詩を書き、レコードに耳を傾けるロマンチスト。

石本康平〈早見ゼミ〉
〈函館西〉・〈札幌トヨタ〉

函館出身にしたらめずらしいセンスのいい男。高校時代スキーで鍛えたスタイルがどの地へきても乙女等の胸をかきみだすらしい〈最近はそれを単数にしぼったとか〉。そのせいか最近は柔和な顔つきになった様だ。この彼も応援団、寮長の時のあのきびしい眼差しは世の女性〈男性を問わず〉をふるえあがらせたとか、最近の彼、高橋和巳に傾倒しているとか、でもしょせん〃孤立無援〃に生きられないのが彼の限界、この限界とどう対処するかが今後の彼の課題となるでしよう！〈西記〉

石内真〈吉武ゼミ〉
〈滝川〉・〈楢崎産業〉

スマート、スポーティという形容に真にピッタリの男である。その容姿の通りスポーツは万能、特に卓球にかけては天才的とか？性格は概して明るい。しかし時には近ずき難い程、考えこんでいることもある。物事は一応〃果してこれでよいのか〃と一度は踏み留まって考える。また彼は音楽にも興味をもち一年からグリークラブに入部、その美声？をバリトンのパートで存分に発揮している。就職先も活動的な商社とか、今後の活躍も楽しみである。〈田沢記〉



伊藤研二（古瀬ゼミ）〈札幌西〉松下電器

自己の究極的目的に到達する為に彼はそのプロセスに於る自己の一切の〃誇り〃を捨象し突進する。羽球練習に於る下級生への挑戦そして敗退、再度の挑戦そして再び……。しかし彼は信じている。それが究極に於る勝利への最短距離である事を。その彼の人生哲学？の戦利品は初伝の光輝に輝くそのうなり（詩吟）である。彼のあの熱狂的宗教信者の〃読経〃にも似たるその「うなり」は彼にとって自己超越、自己陶酔の瞬間であり、同時に捨象された自己の〃誇り〃の回復の瞬間である。（石田記）

岩田雄吉（麻田ゼミ）〈砂川南〉教員

岩田雄吉、知る人ぞ知る智明寮に於て、通称〃岩さん〃の名前で浮名をはせている。小生は彼を何とかほめたたえ様と思う。しかし如何に努力してもほめ言葉がでてこない。かといって、どこといって悪い所もない。勉強もしない。女にはもてない。麻雀は弱い。酒まで弱い。ああ……私は、何を書いたら良いのか……？一週に一度札幌へ行く。何をしに行くのか。それも判らぬ。うわさによると女性に会いに行くとのことだ。信じられないんです。私には……。彼が女性に会っているなんて……。（野本記）

岩戸襄二（早見ゼミ）〈旭川東〉日本相互銀行

一見何も悩みをもってなく、ただ学問（？）をするのみの感。また何を言っても、とうふにくぎをうつようにまるでひびかない。ところが何味はどうしたものか？いつもファイトを胸にひめ、やる気じゅうぶん。心にファイトをこめて日夜（？）がんばってゆくでしょう!!（森中記）

泉建樹（岡本ゼミ）〈桜陽〉函館ドック

彼を一言で云えば外柔内則の人である。ソフトな雰囲気は人に好かれ、慕われる。敵をつくらない。徳な性格である。包容力を持って人と接し、細々なことにこだわらない態度は大人のムードを漂わせる。しかしこれぞと思うことに対しては秘めたる情熱でとことんまでやるのはりっぱである。ますます勉強して、さらにスケールの大きい人間になり大成して欲しい人である。きっと彼なら、それが出来ると思う。（池田昭次記）

城崎征二郎（武隈ゼミ）〈八女〉三和銀行

彼の社会性を背景とした純粋性を高く評価すると共に将来にあくなき闘志、不断の着実なる努力と前進は、人間の深味と厳しさを感じさせる。真に男であった。超俗二人のゼミナリストが武隈先生を媒介として不調和の中の調和（？）大いなる驚異と感銘を与えずにはいられないであろう。（Y・H記）

鎌田紘文（古瀬ゼミ）〈潮陵〉富士通信機

このまじめな顔を見て下さい。大学四年間を通じてただひたすらに勉学に励んだ男。遊びもせず、怠けもせず、ただ黙々といつもなにかを行っている男。彼には道産子特有のネバリが人一倍あるように思える。それは解散寸前のバレー部に入り黙々と一人で練習に励み、今日のバレー部の基礎をつくったことでもわかるであろう。だが決して人づきあいをきらうのではない。内面的な芯の強さもある反面、親しみやすい面もあるのである。社会に出てからも、持前のネバリ強さでまい進することを望む。

神谷是公（西川ゼミ）〈江別〉

江別の産。五尺そこそこの体に、激しい気性と旺盛な探求心と、無鉄砲さを兼ねそなえ、〃カメヤ〃の名が示す通り、斗酒辞せず、目のフチを朱にそめ〃子供はな、弁証法的下何分析の結果なのだ。〃というあたりになると、すでに彼の頭の中は論理以外何も存在しないのである。これがこよなく愛すべき彼の特徴である。玉にキズは二十二才のヨワイながら、高校生でどこへでも入ることができる幸せな男であり、その童顔は少女趣味で大変中、高校生あたりの乗誕の的であるらしい。しかし彼もチマタのうわさによると弁証法的恋愛観をつらぬく相手ができたとか？健闘を祈る。（田尾記）

観野信雄（久野ゼミ）〈美幌〉新日本電気

彼は美幌の昼なお暗き山奥の出身のためであろうか常に仙人的迷想にふけり行動的でないのが欠点であろうか。夜明けまで酒にしたり自称真面目人間で通っている。カメラと酒をこよなく愛したために彼女一人出来なかったのが彼の大学生活の反省である。しかし優秀なる頭脳を発揮すればすなわち眠りからさめれば大きく飛躍するであろうと信じる。社会人としての大成を祈る。竹林の七賢のこの舞いを踏まないよう忠告したい。（蓮池記）

金沢正俊（石河ゼミ）〈池田〉北海道東北開発公庫

雨ニモ負ケズ風にも負ケズ毎日飽キモセズ地獄坂ヲ登ッテクル商大ノエリート。責任感強ク実行力ニ富ム。日夜勉学ニイソシム（？）カタワラ、グリーメントシテ鼻声ヲハリアゲ女子大トノ合同演奏デハ並イル強豪ヲ押シノケワレ先ニト行動スル。性格明朗ニシテ器量ヨシ、ソノワリニモテナイノハ寸法ガ小サイ為カ？（K・N記）

金吉誠之（伊藤ゼミ）〈旭ケ丘〉昭和産業

人付き合いが良く感情をめったに表面に出さず、笑みをいつもその童顔に貯えている彼であるが、その眼鏡の奥には計かり知れない闘志が隠されている。ポーカーフェイスという言葉は彼の為にあるようなものだ。理論的な事は若干、苦手の様だが、行動的で野性的な一面も彼の魅力の一つである。粗食に耐え、丈夫で長持し、大物の素質あり。（K・M記）

加藤博（安孫子ゼミ）〈芦別〉日立月販

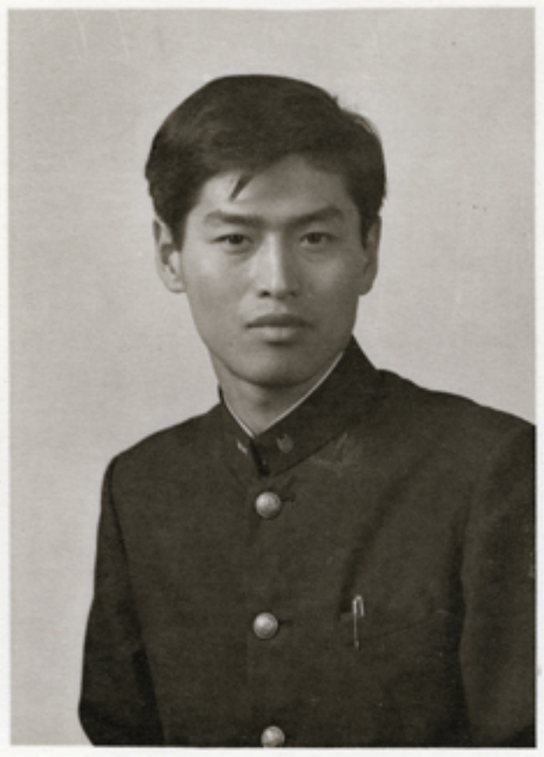
君の一本気の情熱と一徹の心情には、他の追随を許さぬものがある。寮生活四年間に於ける終始一貫した行動は野武士の感が彷彿とする。君は人生の真を追求するに古人を尋ぬることやぶさかならず、歴史に長ずる事、商大の一角を成していたが、あわせて、数理的思考の重要性にも目を向けていた。その潜在的豪放磊落さを生かすなら、必ずや何事か成す大器の質がある。（S・J記）

川村恵二（進藤ゼミ）〈奈井江〉

弁舌爽やかにして頭の回転が早く、眉目秀麗なると、すぐれて統率の才を有する男。常に口びるにメロディをあたえ、静寂（しじま）をやぶって爆発音を発す性癖あり。反面、非常に織細な神経をもち、心にはヒューマニティーと正義感をもやしつづけています。そんな彼にすがる乙女を振りきって、アルバイトにいそしんでゼミの先生を淋しがらせました。（A・M記）

川瀬忍（麻田ゼミ）〈札幌南〉進学

本曾ゼミから麻田ゼミへの新入生、川瀬君は学問の道に志す勉強家です。ゼミにおける彼の発表「経済成長理論」に関しても、要点を適確に指摘して行く彼の態度は全く素晴しいものです。つまり彼は成績も良く、且つ素晴しい頭脳の持主であり、それと同時に、人柄も良く、皆に好かれていて好青年です。序いでペンをすべらすと、彼自身の内に秘めたる情熱から数多くの女の子をして、夢中にせしめた play boy 的要素もうかがわれます。（S・A記）



川手正紀（早見ゼミ）＜甲府第一＞太陽生命

小柄な体ではあるが、ものすごいファイターであり頭の回転がすこぶる速いから、色々な事を手際良くまとめてしまう。まさにトランジスターである。物事に対する順応力もきわめてするどい。又仲々のロマンチストで詩歌に親しむ一面もある。しかしムードに弱く落着いたホンワリムードの女性に会うと、うつろな目をして体の重心を失ってしまうのが欠点、と同時に時たま感情に支配され極論を吐く事があるが、これは彼をして人生を多彩に生きる要素をもちあわせていることにもなろう。（執行記）

剣物幸男（麻田ゼミ）＜緑陵＞高千穂交易

人間蒸発、これは所謂「格子なき牢獄」と称せられる現代の人間の存在条件の中で自からの実存回復を願うべく、自己にこびりついた社会拘束性との拒絶を決し自由なる森へ羽ばたく哀れにもはかなくしかし雄々しき白鳩の姿である。「O・U・C」社会より彼の消息は七月を機にぶっつりと跡絶えた。彼を蒸発せしめた直接的契機はゼミナールに於る強制的学門への道か、それとも……。皆何も知らない。しかし私には解る。柔道で鍛えた逞しき肉体、天性の生活力の旺盛さを持って今日も何処かで笑っていることを／（石田記）

城戸雅敏（安孫ゼミ）富国生命

下宿のおばあちゃんからは「うちの息子として可愛がられ剣道部においては「ブリンス」として一年の時から活躍したのを忘れられない。性格は物静かで、ほとんど表情を顔に表わさず、これが女性の誤解をまねくもたびたびであった。

木戸良吉（岡本ゼミ）＜桜陽＞

酒屋の若旦那だけあって、商人らしさが板についている。その物腰の柔らかさは天下一品。特に年輩層の扱い方に妙味を示す。最近は店の経営合理化をめざし日夜励んでいる。そのせいか、ゼミのある日以外は学校で会うことはできない。そのゼミの日も愛車（ホンダL三六〇）で行き帰りする御身分。太るから何か運動でもした方がいいよ。桜陽高校出身

菊地国雄（伊藤ゼミ）＜札幌南＞安田火災

愛車のコロナで札幌国道をとばして通学してくるキップのいいダンナ。その風貌は重役タイプを思わす。しかしその大きな体に似わずなかなかの繊細神経の持主で、ものがなしい音色を出すオーボエを得意とする。家業のせいか、ことクラッシク音楽にはちょっとうるさい存在でその話になると目の輝きが違ってくる。家柄の良さが手伝って性格はきわめて温厚、コンパの席でのドイツ語で唱う歌の味は又グット渋い。（執行記）

北島滋（安孫ゼミ）＜旭川東＞進学

まじめで朝二時頃から勉強しだす。それまでは訪門客が多くて勉強にならないと言っているが……。ゼミの関係もあってヘーゲルについては少しうるさい。大学院志望だが、不断の実力をなるべく出さないようにして試験に望んだほうがいいのではないか。又、彼は、大学生活の半分を自炊で通したので料理の腕は相当なものである。が逆ってこのために将来二人になってから、ひと悶着起ることが充分考えられる。

越山毅（石河ゼミ）＜札幌南＞萱場産業

容姿端麗にして話術巧みなり、性格明朗にして知友多し、論理的思考力満点、時を忘れ真理の探求に没頭す。夏、紺碧の海に釣糸を垂れ、冬、白銀の山に雪けむりを上げる。小柄ながら度胸ある雀法。時を忘れ雀友と自模る。女性関係？？？？学業成績？？？？？太平ムードに燃やす友逆の魂、将来の活躍に期待す。（K・N記）

小柳健佑（石河ゼミ）＜札幌北＞北洋相互銀行

神経細やかなりしところ多分にあり。手が震えだしたら満貫に注意。その反面、いざという時には、小じんまりとまとまった。身体に似合わず莫大なエネルギーと闘志を発揮する。健ちゃん、これからは自分の言動に自信を持って度胸の見せ所を間違わずに頑張ってもらいたい。

久保田忠（安孫子ゼミ）＜三笠＞岡村製作所

一見シマリのたいつかみどころのないような男だが、なかなかどうして、骨と皮ばかりの全身には、現状をなんとか打開していこうとするスルドイカミソりのようにとぎすまされた神経とエネルギーがひそんでいる。野球部ではショートを守り、哲学研究会では理論的中心者としての活動ぶりをみれば、その人となりがうかがわれるというもの。表面上の「シマりのなさ」は、高校時代の対人関係で身につけた技術的な残りカスとか。（佐々木記）

黒崎栄（ノンゼミ）＜宇都宮＞

彼は応援団副団長、体育会副会長と運動部育成のための蔭の力となっていた人物である。兎に角、彼は統率力のある人間であり、ズバり、ズバりと物事を実行していく人間である。長所として授業をさぼって（避けて）彼女と？新の歴史を創っている。（K・M記）

倉田勝弘（桑原ゼミ）＜浜松北＞朝日生命

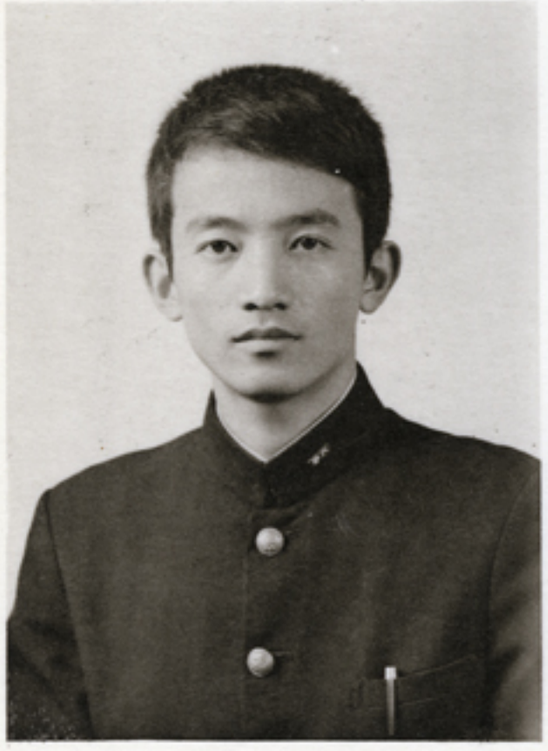
もしも夢を食うバクが、そんなヤツがいたとしたら、彼みたいだろう。彼のつぶやきはきわめてげんじつてきで、それでいてどこかげんじつばなれしているようにオレはおもう。彼の世のなかでうまくやっていくさいのうはおそらくそのへんにあるのだろう。だけど彼もまたおとこのこ、このよねんかん、なやみはつきなかったという。（桑原ゼミの学館フーテン族　K・A記）

来正英樹（伊藤ゼミ）＜滝川＞新宮商行

その風貌からか、一見すると四年生を感じさせないのであるが、なかなかの貫禄である。時に当ればファイト満々、麻雀をさせると連日の徹夜もなんのその、四年間鍛えた実力の見せどころとなる。又草野球となると、中学時代ならした名？捕手論をひっさげての大活躍、小さな体を大きく見せる。「山椒は小粒でもぴりりと辛い」というところか？すまし顔のタンスもイカしたものだが、シェーカー取らせば本職はだし、「小梅の夜はまかしとけ／」（秋本記）

前田光一（中川ゼミ）＜深川西＞国策パルプ

誰が見てもヌーボーとして見える。ただそう見えるだけでなく、まさしく彼はヌーボーとしている。図書館には決まって、ヌー（ッ）と顔を出し、その髪はボー（ッ）としている。髪がボー（ッ）としているからといって脳味噌までボーッとしているのでは断じてない。頭はきれるのだがそれでいて田舎ボケして見えるのは別にボーズでもなさそうだ。彼自身は〃ノウアルタカハツメヲカクス〃ような心算は全くないらしい。（荒木記）



丸山雄三（篠崎ゼミ）
〈長野〉セメダイン

顔と眼鏡の対比に於て、若干のアンバランスが産み出す形相。故吉田茂的保守精神と適度な現代感覚。四年間、金属線をまさぐり続けたエレキッ子。良きにつけ悪しきにつけ自信のある人。大学へ入ってからも身長が伸び続けていたという、成長期の途上にある。良い家庭を作る、マイホーム的感覚。現代っ子であり、少し古いものにあこがれる、そんな人。

政永昭年（斉藤ゼミ）
〈帯広柏葉〉拓銀

彼とはゼミ、クラブ共に一緒であって切っても切れぬ縁があった。彼はヒューマニストでありユーモアに富む人間でもある。彼にはどっしりと地についた自己の生活を持っており、彼の精神には安定性がいつもある。愚なる小生にとっては最高の友である。願わくはもっともっとファイトを表面に出した創造的な、闘争的なヒューマニストとなってほしい。しかしこの望みは彼にはすでに具備されているかもしれないので、もしそうであるなら小生の彼に対する観察力が足りないせいなので悪しからず。

（西山記）

松岡正勝（ノンゼミ）
〈潮陵〉山崎製パン

彼はいつもおだやかで人あたりのよい性格であり、遊びは何をやってもへたの横づきである。少なくとも、普通の学生より勤勉で、地道な努力を積み重ねるという大器晩成型といえるであろう。今の学生にはこのような地道な努力をする人がみあたらないだけに貴重な存在であり、社会へ出てからの成長が期待されるであろう。

（猿田記）

松浦輝（進藤ゼミ）
〈帯広三条〉山友産業

「ズブトイ神経」のもち主。ナンダカンダ言ってもイザという時には、たよりになる人間である。柔道部で鍛えられた意外と骨太いがん強な身体があってこそ"徹夜の「勉学」"にも耐えられ、好きな「学問」も卒業時まで（特に四年生になってからはいそがしくなったが）一貫してつづけられたわけである。決して"するどく"はないがじわじわと信念をおし通す男である。最後にとらえどころのない男である彼が、このような一般的な評しか書かせないことをつけ加えておこう。

（佐々木記）

三木高久（西川ゼミ）
〈潮陵〉協和銀殊

見て下さい。このまじめそうな顔を、正義感責任感が人の倍よりも強そうな感じの男。ダン研の会長として常に先頭に立って、クラブを盛り立ててきたのも、との責任感の強さがあったからであろう。が、しかしそればかりではない。考えるときは考え、ウエットな所はその場に応じて変化を見せる器用さもある。この臨機応変の態度があったからこそ、クラブ員を始めとして、皆から親しまれているのであろう。社会に出てからもこの自分の性格を生かして健闘することを祈る。

三佐川進（麻田ゼミ）
〈緑陵〉コカコーラ

一見平均的日本人というのか、余り強い印象を与えない人物である。これは彼に熱烈な恋愛の経験がないからだという人もいます。今後彼が大恋愛をする事により彼の人生観は大きく変わるであろう。彼はクラシック音楽という高尚な趣味を持っていながら彼の恥かしがりやな性格の為か、どうしても消極的すぎてじれったい程である。これは彼の欠点であり、同時に純情素朴な彼の長所でもある。これからは全ての方面で我々の若さの特権でもっと積極的にやってほしい。友人として彼の人生観を変える自信のある女性の出現を切に望む次第です。

（S・K記）

宮崎武則（伊藤ゼミ）
〈函館東〉協和銀行

"はるばる来たぜ函館"は松風町二八番地。口の悪い函館人の典型。中学時代は投手で生徒会長、大学時代は空手部の主将とスポーツ万能にもかかわらずどういうわけか背が低い。本人に言わせれば身長の伸びる時期に運動をしすぎたせいだとか。しかし女性にはもてる。"函館の女"から何度か求婚され女性に対する恐怖は増すばかり。そのためか、あれほど女性を

宮崎武則（伊藤ゼミ）
〈函館東〉協和銀行

"はるばる来たぜ函館"は松風町二八番地。口の悪い函館人の典型。中学時代は投手で生徒会長、大学時代は空手部の主将とスポーツ万能にもかかわらずどういうわけか背が低い。本人に言わせれば身長の伸びる時期に運動をしすぎたせいだとか。しかし女性にはもてる。"函館の女"から何度か求婚され女性に対する恐怖は増すばかり。そのためか、あれほど女性を求めて街をさまよっていたのに四年目になるや、酒とパチンコに堕してしまった。指にパチンコ豆が出来る程のセミプロパチンカー、宮崎武則の二十年後はいかに。

（酒井記）

水口武（岡本ゼミ）
〈札幌東〉共和コンクリート

この男が見ているのはいつも地方都市の周縁部の方へ　最初の発砲の静寂よりも魅力的な沈黙のなかで窓の癩病じみた格子沿いの繊維の束やリンネルの裁ち屑がイラクサのように風に震える廃工場の一帯が不意に現われたりする田舎の郊外の方角なのだ。わかるかね？空模様が変るのだ

（K・T記）

森敏（安孫子ゼミ）
〈函館中部〉ボーニ森屋

長身。澄んだ眼と白皙の額には彼の　明さが表わされている。そしてそのホオには常に微笑がたたえられている。浜の男（函館の出身）の血筋を引き、頼まれれば後へは引かぬ侠気を持っている。彼の静かな態度は自己を客体として捕えたものの厳然たる自信から由来する。推理小説とハードボイルドから自己の哲学を見出した彼。ジャズを愛し「京橋」のコーヒーを愛した彼。そして又彼はこよなきバッカスの神の礼賛者でもある。

（観野記）

森本秀昭（安孫子ゼミ）
〈本巣〉岩崎電気

通称モス。一見してキザ。二見してチャチな芸術家。ヨレヨレのズボンに薄汚れたジャンバー、三ケ月のばしっ放しの髪。このスタイルが彼には最も相応しい。履歴書に小樽商科大学演劇部照明科卒業見込と書いたとか書かなかったとか。とにかく多才有能なる男。彼の瞳は涼しく、冷たい。そして燃えている。だが自分の限界を「ことだ」と設定し、頂上まで登りきろうとしないこの甘やかし。今後の彼に期待したい課題だ。岐阜県出身。

（大坂・荒木記）

森中東雄（安孫子ゼミ）
〈砂川北〉松村組

子曰、「剛毅木訥近仁」とは聖人孔子が森中を啓発した時の言葉だそうである。緑丘の学舎に登場する姿は、竜虎すら戦く程であった。最近では学問を研究する　、自己闘争の結果ぐっと人間味が増して来ている。四年間柔道部に所属し、実力三・五段？である。柔道にも個性が出て勝敗が極めて簡単だ。時には応援にいってて、ガッカリすることもある。将来もきっと活躍することを確信する次第である。

（岩戸記）

森田欣治（伊藤ゼミ）
〈札幌西〉兼松江商

彼の在籍はヨット部だが、一見そのように見えないところがある。なかなかのダンディーでパチンコはセミプロ級の腕前である。ゼミナールの時間もそうだがどちらかというと目立った学生ではなく地味な落着いた一寸分別くさい男である。そう言った長所が又短所とも云い得るわけであって、いささか若気の誤ちを犯すようなところがないのが残念であるように思われる。それと勝負根性が足りないのも残念。これから商社マンとして活躍する彼の将来は前途洋々としているが全ての面に押しの一手で頑張ってもらいたい。

（A・T記）

守山昭男（進藤ゼミ）
〈旭川商業〉日本興業銀行

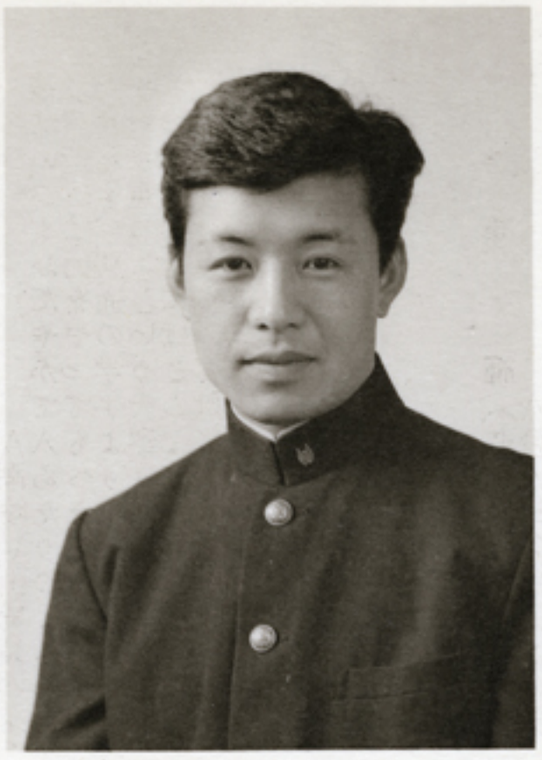
本当は男よりも女の方が強いんだなあ。そんなことをいっては、自分の弱さをしみじみと感じいっている。それでもあるひとの影響を受けて、「対象になるのはいやだ」と口ぐせのようにいう。まじめてキチョーメン。勉強家。この男にはウッカリしたことは言えない。すかさず「そうかなあ」といいながらややかしゲた頭に手をやり、髪をなでつける。その時キッとする彼の目には妙な神秘がただようからだ。

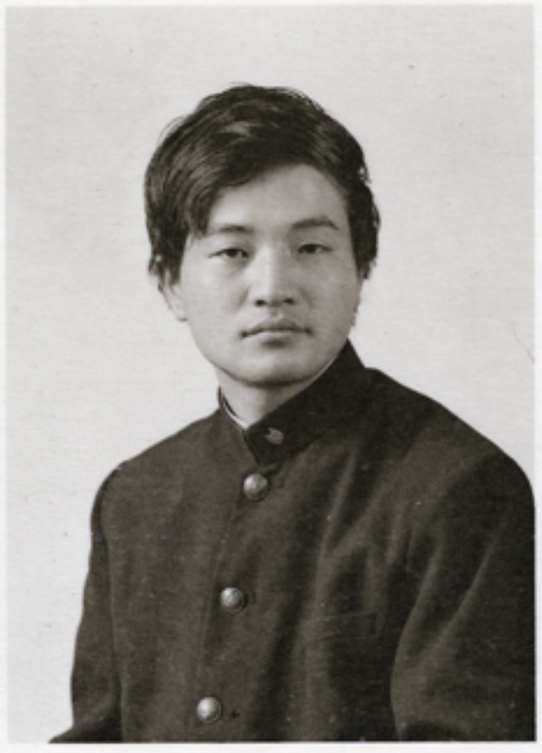
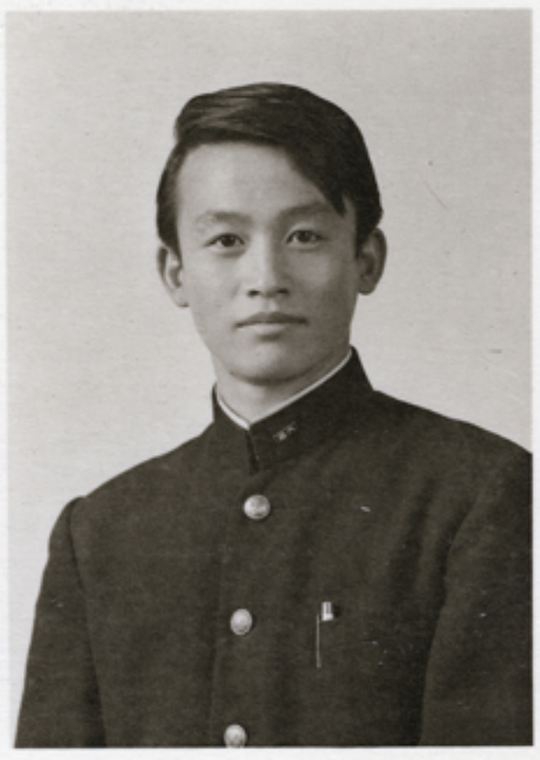
（M・O・S記）

迎町健夫（麻田ゼミ）
〈札幌南〉日産自動車

高校までは随分と課外活動をやってきたらしいが我商大では、ひたすら勉強に励んだよき"タッチャン"である。ニコニコとしながら、ゆっくりとしかし休まずに勉強を進めていく彼はさながら仲間の刺激剤の様でもある。麻田ゼミナールの中で理論経済ととり組む正統派である。反面ダンスの上手な"タッチャン"としても皆に知られる。会場へ行って彼の目をごらんなさい。教室とのあまりの違いに驚きあきれる事うけあい。何と優しい顔を彼はもっていたか、人間の不思議が感じられる。日産自動車にのって、皆さんの所へ売り込みにくる事でしょう。

（三佐川記）



村上佳主雄（早見ゼミ）

〈砂川南〉富士重工

どことなく親しみがもて、下級生にも大いに信頼されている頼りになる男。いつもはバンカラスタイルでどうしているものの、ひとたびネクタイをしめたらなかなかどうして、ピリッと引き締まりその辺のBGなどちょっと近寄り離い存在となる。また大仏様のような彼の耳は将来金持になることが役束されているそうである。ただ、酒を歓んだら底なしだということが少々心配になるか……。（上原記）

村田裕一郎（伊藤ゼミ）

〈札幌南〉道銀

まじめな男である。その落着きと内に秘めたるファイト、理想的な銀行マンタイプとなるだろう。現代のような非個性的な人間を生み出す世の中でも彼のような別な意味での地味な個性的な人聞は貴重な存在である。幅の広さスケールの大きさが要求されるところだが、社会人となればうまくこなして行くにちがいない。いつももくもくと歩いている根気のあるやつだ。期待される銀行マン像だ。（道銀）（吉田記）

永沢潔（岡本ゼミ）

〈札幌北〉サンスター歯磨

散乱のなかの集中。彼の視点は常に、天孫降臨の折の綿津見の中の一滴への憂慮だ。人間、何故に石に生まれざるか。華麗なる大輪に包まれた誤まてる人類の選択。この苦悩から彼を救うのは乱反射を切断するモーゼの剣であるはずなのだ。だが彼は真直ぐ走り、ふと立ち止まって首をかしげ、思考する。（K・T記）

内藤邦崇（石河ゼミ）

〈美唄市東〉江口証券

勝負の世界の厳しさに魅せられ、四年間「勝つこと」を追求し続けた男である。彼曰、「勝負の厳しさは人生の厳しさに通ずるものなり」と。この研究成果をもとに、卒業後は証券界に身を投じ、終生勝負の厳しさに生きるという。彼の行く末は如何に？彼は占いの迷人でもあるが、自分の事だけは解らないそうである。

中川淑（篠崎ゼミ）

〈留萌〉北海道信用保証協会

一見すると、ひ弱な感じを与えるがなかなかたよりになる男、四年間授業に出た時間よりテニスコートにいた時間の方が長かったとか。テニスコートと映画のことしか知らず四年目にして酒の味をおぼえたとか。北海道がよっぽど好きと見え念願かない北海道に住みつくことになった。

中前行雄（吉武ゼミ）

〈広大付属〉日本楽器

考える人である。いつでもその冷静な行動によって物事の判断を誤らない。無口なせいか一見とっつきにくそうに見えるが、ゼミにおける又クラブ（合唱団）におけるミーティングで、一つのテーマが与えられると、がぜん理路整然とした弁舌がさえてくる。これは彼の日頃の膨大な読書量を知ればうなづけることである。しかし一方的な堅物でもなく、四年間寮生活をした割には下町の様子（飲み屋）もよく御存知だし、又彼がフォークダンスの檜威であることは自他共認めている。時々郷里広島に残してきた彼女の安否を気づかうが、それでも卒業間近になって「小檜は最高だった」としみじみ述懐している。（石

（石内記）

中野竜雄（ノンゼミ）

〈函館東〉丸井

小檜商科大学サッカー部創設者、サッカーの名門函館東高出身。とにかく球をけってれば、「この世はバラ色」って男、いや、けるばかりじゃない。″はじく″″つく″″ころがす″と球技は多彩である。名前のごとく雄々しく、たくましいのは球を扱っている時だけ、普段はのっそりとしていて小さい声で喋る好青年である。（大西記）

中村正司（斉藤ゼミ）

〈桜陽〉北海信用金庫

共に斉藤ゼミの一員となって以来、二年余りの月日ながら彼は小生にとって異色な存在である。古武士を想わせる風貌より生ずるイメージか、その悠容迫らざる物腰、小事に拘泥しない達な言動は人柄の明るさを淡白に表明しながら、しかも奥に潜む懐の広さを感じさせる。気楽に振舞って人に好かれる得な性格である。時に感じては人情の機徴に触れるユーモアを発し事に際しては発想の独創性と確固たる信念を示す。勉強に於てさえ、集中の内に自ら心楽しむ境地を拓く、全く不思議な不思議な男である。（政永記）

成田清彦（久野ゼミ）

〈釧路湖陵〉伊藤忠

道東の都、釧路の生れと聞く。しかし出生は霧につつまれている。秋魚刀を食べだして十余年の歳月、今日ある彼の原形がほほ出来上る。大学に入ってからは、すべてに努力に努力を重ねた。よってダンスは人並み、碁は弱くはない。また文学、音楽へと趣味が広いと聞いたことがあるような気がする。四年目の時には、ヨーロッパへ試験回避のために旅行した。うらやましき、良き男である。（T・D記）

西信博（早見ゼミ）

〈釧路湖陵〉

キビシィ！この一語につきる男である。常に源々としていて少々のことには絶対に動じない男である。つまり肌に感じとれぬ位の空気の動きにもざわざわと揺れ騒ぐ河原の枯とは対称的な男なのである。しかもそれにふさわしくニヒルなムードを満身漂わせている男である。だが私見によるととかくこのタイプの男性は実に女性的と言っても良い程の優しさを備えているものである。何故なら彼の別名である″眠狂四郎″をみていただくと判るがこよなきヒューマニズトだけがニヒリスト足り得るからである。（石本記）

西山康雄（斉藤ゼミ）

〈天理〉西友ストアー

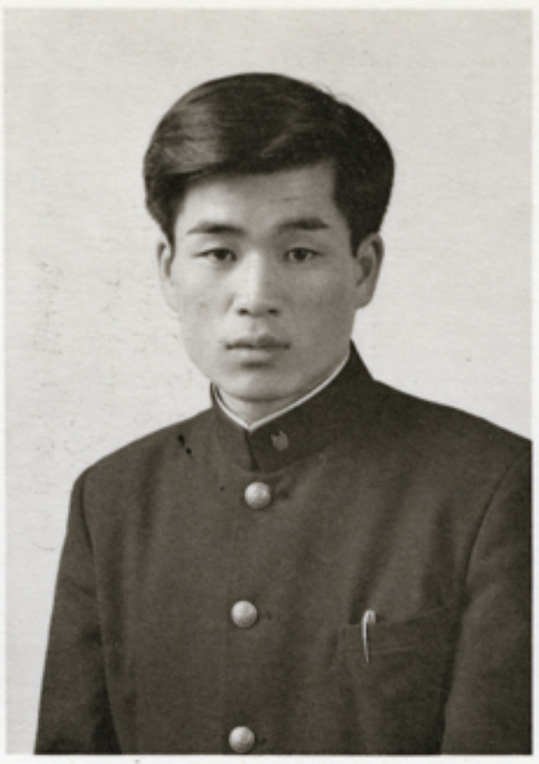
四年間ゼミもクラブも一緒で小生にとり良き友であった。平素種々接する機会は多かったがその冷静な判断力、精神力の強さでしばしば小生を啓発して呉れた。潔癖で強い個性を持ちながらも偏狭に陥る事を拒否し、自制によって常に弾力的な見方をしょうと努める若さの持主である。痛烈なユーモアを発しながら嫌味に落さぬ技量は重すべき特技であって、磨けばより冴るであろう。彼のこれらの潔癖と囚らわれず物事を見る目との戦いであろう。どちらが勝っても不可ない。その戦いの内によりスケールでかく大成することを祈り期待する。（政永記）

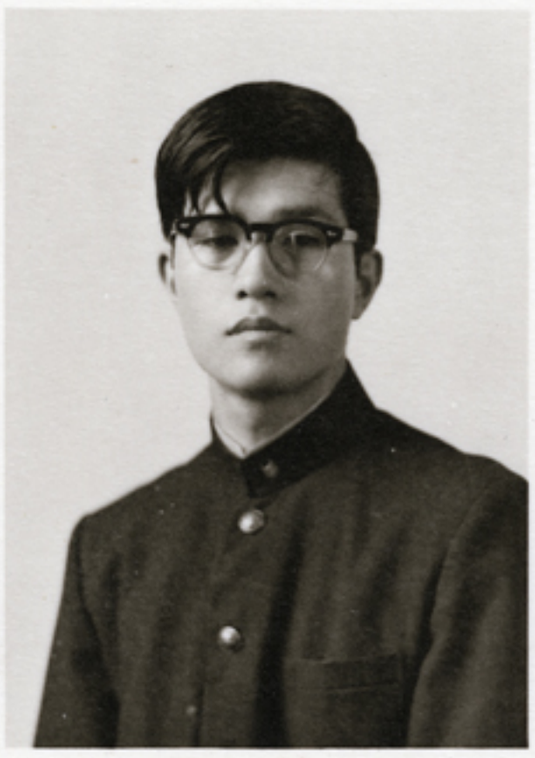
野本一幸（麻田ゼミ）

〈苫小牧東〉住友商事

ギターを爪弾き、柔に心ざし、ひたすら経済統合の理論に打ち込む。正に小檜商大に学ぶ者の鏡である。……と言えば野本氏はニャリとほくそ笑むに違いない。しかし現実と理想の一致しないのが我等の悩みであり、彼氏も例外ではない。人生意気に感ずか。大体ゼミはよくサボッていながら、あっさりと就職を決めてしまうところをみると、この男は大器晩成型かも知れない。ただ一つ野本よ注意せよ。″英雄色を好む″あまり色を好んで大器を逸するなかれ。

Love is a man―spendid thing
It's wednesday love.





野本養之助（久野ゼミ）〈長岡商業〉〈神戸銀行〉

新潟県長岡の出身、弓道部主将、久野ゼミ幹事の経歴をもつ実力者。しかもユーモアにあふれ、彼一流の「野本ウイット」は諷刺をまじえて小気味よいものがある。学問にあっては自ら懸賞論文に応募し入賞するなど着実に成果を上げている。立派立派／タバコはだめだが酒はいける口。酒勢に興じてする踊りは見事でアメノウズメノミコトを思わせる。これも又一流の芸域にある。（黒田記）

野崎晃二（石河ゼミ）〈札幌西〉〈小松製作所〉

四年間広島村から汽車にのり、バスに乗り地獄坂を登って無遅刻無欠課で通したとか進うとか。まあ大変な堅忍不抜の精神の持ち主で、ゼミ幹の責もよく果してくれて、感謝すると共にいささか空恐ろしい気もします。明るい性格でコンパでもよく唄い、その「石狩川エレジー」は石河先生の「蘇州夜曲」とも並べられるものでした。好漢に大成を期待する次第です。

及川智（伊藤ゼミ）〈札幌西〉〈北海製缶〉

学生生活の大半をヨットに情熱を傾むけた好ファイター。経営ゼミに籍を置き、経営学をかじるかたわら趣味の麻雀も又忙しいという仲々多芸の男。四年間の大半を祝津で過したせいか仲々のロマンチストではるか札幌には将来を決めた最愛の人あり（?）ともっぱらのうわさ。（羽場記）

岡田一利（ノンゼミ）〈大阪北野〉〈八州器機〉

彼の大学生活の一日はテニスコートで朝日を拝むことに始まり、テニスコートで夕日が沈むのを見とどけることに終った。おてんとう様が高いときもやっぱり汗をかきながら白球を追っていた。色の黒さとテニスのことなら誰にもひけをとらない。彼は大阪のド根性を北国の青い空の下で見せてくれた。これからも彼は我が道を脇目も振らず進んで行くだろう。（中川記）

大川良祐（安孫子ゼミ）〈潮陵〉〈樺崎造船〉

通称ベトコン、ほお骨がガクととびでて、前かがみでクリクリした眼からどこを見ているかわからないほどよく動く眼、ジャングルで前進しているベトコンに似ていることからでたのか。水泳部の体験を生かして物体における水の抵抗をいかに少なくするかを卒業後も研究するべく就職を決定。過去四年間彼の辞書には「女」の字はぬけていた。（K・O記）

大西高純（吉武ゼミ）〈函館西〉〈小杉産業〉

函館育ちの色白な肌と大きくて澄んだといっても時には飲みすぎや徹マンで充血しているが、炯眼の持ち主である。彼の大陸的抱擁力は茫洋と拡がる碧海にも増して深く、その親しみ易さと相俟って、彼をつつむ全ての人に満足感と安堵感を与える。万人に好かれる人間である。ただ一人、多分あまり好いていない様な人がいる。それは彼自身である。（浅井記）

大坂恒悦（安孫子ゼミ）〈函館ラサール〉〈日本製粉〉

もっぱらキタナイ男で通っている。睡眠不足のせいか、いつもつかれたような顔をしているが、それでいて不思議と目だけは輝いている。目がさめているときはじっとしていられなく、クセのある大声であたりの者をおびやかしている。それでもこんなほほえましいエピソードもある。ある時、喫茶店で女の人と同席し、すっかりとまどってしまった。その女の人がやさしげにスプーンを手にし「いくつ?」ときいた時何を思ったか「18」とあせって答えた。大坂君は、自分の歳をきかれたと思ったんだなあー。（MOS記）

太田裕章（早目ゼミ）〈琴似〉〈東洋木材〉

四年間ヘアースタイルの変らなかったのは商大生少し?と言えども彼ぐらいではなかろうか。そのスタイルが幸してか、災いしてかよりは相当若く見える。時々とてつもない極端な意見を吐きびっくりさせるが、中身はどうして、柔軟性に富んだ気のいい男である。そういう事を言うのは彼が真正直であるという一つの証しである。（川手記）

大矢裕（岡本ゼミ）〈苫小牧東〉〈共栄火災〉

〃教育者の息子とエレキ〃一見相関々係はゼロに思われるが、事実は小説よりも奇なりと申しまして、それを地で行った男である。エレキギターを片手にグリーンエコーズに入部し、ビート・ロックの音楽をよく聞かせてもらったものだ。性格はおとなしく結構オシャレでヘアスタイルはアイビーカットでドライヤーを使う念入りである。時おり町でメッチェンと御同伴なりし折を見かけたが、その後いかがなされたであろう……。（宮城記）

長田知也（石河ゼミ）〈倶知安〉

ゼミの勉強も良くやっていたようですが、スキーの長田で知られており、駅伝と距離で鍛えられて、その浅黒い顔にはスポーツマンの持つ健康さが輝いている。小樽商大の石河ゼミという自由な雰囲気のみが、練習量を誇るスキー部の選手を例年のように生みだすことが出来たのでしょう。（石河ゼミ万歳）きっとスポーツで得た勝負所での根性と、それを支える体力は役立ってくれるでしょう。

越智和彦（麻田ゼミ）〈室蘭清水丘〉

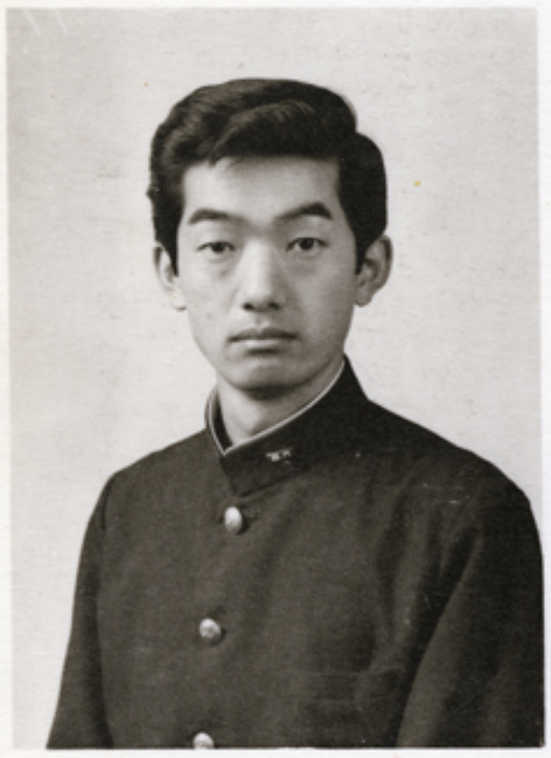
夏の暑さにも敗けず、冬の寒さにも敗けず、ひたすら唯一つの〃とりえ〃である空手道に身をさらしてきた男なり。髪を伸ばし、ひげを伸ばすとまで上野の動物園から逃げてきたゴリラの如き風貌なれど、素顔は色白の好男子である。四年間、欲しい欲しい思いながら、ついに小樽の美しき乙女を手に入れる事ができなかったことが、くやまれてならないと寝言にまで云っている。将来は女学校の先生になりたいと云う。数年後の彼は、如何なりや……楽しみなことである。（K・N記）

佐伯和婕（麻田ゼミ）〈月寒〉〈安宅産業〉

神の御子は月寒の地に生れ給いし。悩み多き、現世の子羊達の救い主は、今や御年二十二才を迎え、この世の楽園小樽商科大学に学ぶなり。彼氏実に救われる顔をしているが、これから競争の激しい現世に出て、どれくらい活躍するか大いに興味あることである。健斗を祈ってやまない。

嵯峨克恵（麻田ゼミ）〈美唄南〉

卒業生の中の紅二点の一人である。そして下級生からは「お姉さん」として慕われている。卒論は「教育の経済学」という彼女らしいテーマであり、我々に彼女が女性であることを再認識させた。学内では男女を意識することなく、すべての意味で対等に活躍してきた。（しかし学外での彼女の私生活は知る由もない。）おそらく近い将来、良い人を見つけて幸福になることと思われる。（S・A記）



斉藤英彰（石河ゼミ）〈札幌北〉〈本田技研〉

英彰という名前と色白な風貌からは、神経質な優男としか連想できないが、仲々どうして旺盛なフアィトと根性の持主である。勝負事の好きなところはそんな彼の性格の一端を物語っている。麻雀仲間ではグイグイ押しまくる勝負根性に定評がある。こんな点から彼の将来を占えば「末は乞食か大臣か」（T・K記）

斉藤博光（石河ゼミ）〈札幌南〉〈全薬工業〉

弓道一代、精神修業、そのせいであろうか。或は北海道人独特の気質であろうか…。落着いている否落着すきているのか、のんびりしているのか講議中には悟りの境に入り、しばしば上下のマブタがビッタンコ。常に焦らず自己のべースを守る。彼の略称は「H」である。これは決して彼がとびぬけてHというわけではない。彼の頭文字がHなのである。（K・S記）

斉藤孝次（石河ゼミ）〈札幌西〉〈日本電気〉

愛称「コロッケ」。この由来は知らないが、彼の顔や体、そして手ぶり、足ぶり（？）で話す姿からくる人なつっこさを想像したら　なるほどと思うだろう。まことに茶の間の味ですよね。ところがどうして、この男なかなか器用で自分でステレオも作るとか。それかあらぬか就職試験もN電気を一発で決めてくるあたり、いやはや実に頼もしい男です。

斉藤誠（竹内ゼミ）〈新潟〉〈出光興産〉

情熱家。語学に対して非凡なるものを示す。かつて民法にも手を出し、今は経済学に没頭しているとのこと。バトミントン、バレー、卓球とスポーツにも情熱をもやす。女性には弱く案外にかわいらしいところもある男。目下確率論にアタックしている。一年間単位取得歳高者。卒業後は石油屋に勤めることになっている。新潟の産。（原川記）

斉藤武士

彼を知ったのはゼミに入ってからであったが、その印象が今だに残っている。背が高く、そして悪く言えば〃ボー〃としているエタイの知れない近づきがたい（人相がよすぎるから）人物の様であった事をおぼえている。話しをしてみると、その体つき顔つきと同様にトットッと話しをする。その内容もなかなか味があって面白い。四年目になって今だに授業に出てくるところをみるとあまり経済学に興味を示さなかったらしい。おそらく哲学などをやっていたのだろう。将来が楽しみな人物の様に思えてならない。大器晩成型か？

酒井公平（伊藤ゼミ）〈緑陵〉〈拓銀〉

日本はさい果ての地利尻島の出身。小さい頃はもっぱら利尻名産の昆布を食べて生きのびていたとか。青雲の志を抱き大学に学ぶ彼は経営学を研究する一方、剣道部、詩吟部を渡り歩いた後、現在は座禅の研究をし、又研究課題の最後卒業論文と悪戦苦闘中。あの秀麗なる利尻富士にも似てなかなかの美青年であるが、女の子にもてる様でなかなかその望みが達せられないのも彼の魅力の一つである。（宮崎武則記）

猿田修司（麻田ゼミ）〈潮陵〉

身長一六六センチ体重五三キログラム均合のとれた彼はさしずめ女性であったら、ミス・ワールド日本代表間違いなし。商大でも屈指の育ちが良い方で静かにして世話好き。人が好くそのうえハンサムボーイ。髪はいつもきれいにけづり服装に関しても種々と注文がうるさく、イカススマートな男！商大の中にこの様な男がいようとは思っても見なかった。一見真面目に感ずるが（？）ダンスが好きでその道ではなかなか……らしい。その彼にとって唯一つの悩みはダンスにいっても相手方から実際年令よりも二、三年若く言われるのが種らしい。「Time flies like an arrow」そんなことは時間が解決してくれる。彼も来年は公立高校の先生として赴任するが何処に行っても彼は素直な永遠の青年教師として皆に愛されるであろう。（渡辺智円記）

佐藤克已（石河ゼミ）〈札幌北〉〈サントリー〉

「タコ」別名佐藤。マージャン、球突き、ボーリング等々足の数程趣味は多いがあちこち目が移って意を決しかねるところ多分にあり。それがマージヤンにも現われ武蔵の古事にのっとり相手をいらいらさせる術に巧みである。しかし授業は殆んど出席しており、結構勉学の方もやっており、本もかなり読んでいたようだ。

佐藤紘司〈函館ラサール〉

目ハ牛ノ如ク細ク、身ノ丈ハ大キ可ラズ。一見シテソノ風貌渥見清ニ似タリ。北海道ハ木古内育チニテ、色黒クシテ、泳ギニ長ジ、浜コトバデルコトタビタビナリ。風雪四年、ラクビー一筋ニ生キ、為ニ講義ニデルコト久シカラズ。サレド、ラクビーヨリソノ精神ヲ体得シ、人格円満ニテ信望アツメルコト大ナリ。日々、「京橋」ノコーヒーヲ愛シ、又民謡ヲ愛スル純情ナルドサンコナリ。常ニ髪型ト身ナリヲ気ニスル、自称プレイボーイナレド、ソノ内気ナルガ為ニ、女子ママナラズ。（S・M記）

佐藤忠彰（斉藤ゼミ）〈札幌東〉〈富士通信機〉

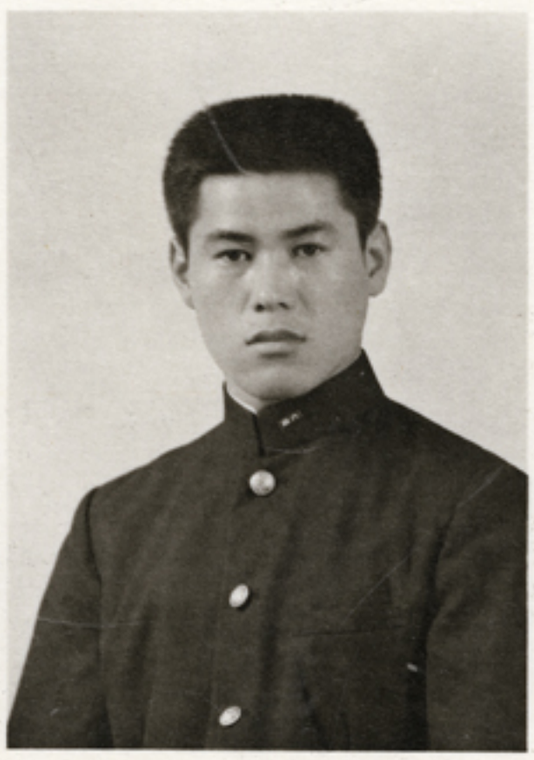
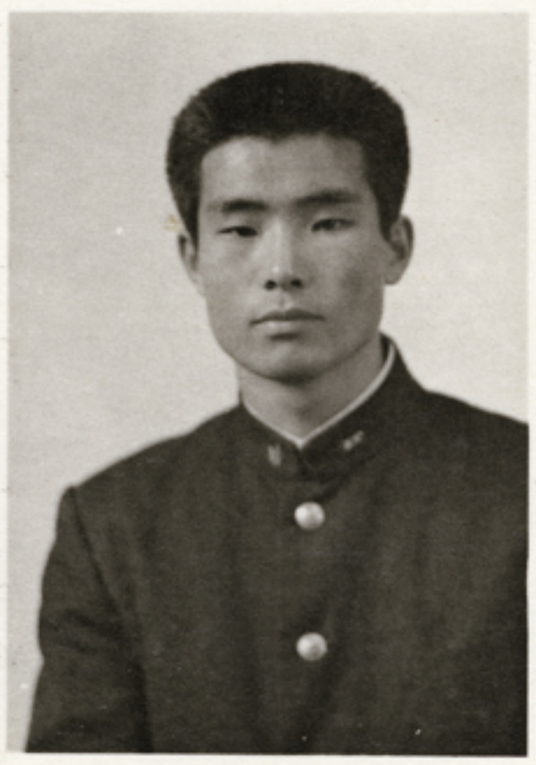
彼との交際は二年余り、旅行とゼミを通してで、未だ識る所は浅いかも知れない。寡黙ながら、自分の道は確り把え少し位の事では動じない意志と実行力のある男性的な性格である。口から先に生れた如き人も多い中にあって、口数は多くないが時折発するユーモアは急所を衝いて周囲を思わず笑わせる。水泳部の仲間とのやりとりを目撃した事もある。筋を通す所は通すが人には寛容な所もある。自己に厳しく自分を甘やかさない丈に人の苦労が解るのかも知れない。彼の自己発展的成長を期待したい。（政永記）

佐藤孝雄（竹内ゼミ）〈長沼〉〈進学〉

「目下猛勉強に取り組もうとしているのだ」というログセのある男。アルコールをこよなく愛し、デカルトにも凝った経験の持主。数学に対しては非凡なる才（？）を示すといわれている。今までにしたバイトの業種も多種に渡るが金を貸したということを闇いたことは一度もなし。卒論は決定理論からベイジィャンへと採菜している。目下進学のため勉強をしているとのこと。図書館を一番利用した男。（原川記）

佐藤裕一（安孫子ゼミ）〈鶴岡南〉〈神鋼電気〉

毎日いかに安楽な生活をしたらよいかを、考えている。

佐藤雄一（竹内ゼミ）

〈緑陵〉〈ダイハツ工業〉ヨットで祝津の海を走る時のスカッとした気持は何ともいえないという男。竹内ゼミナールの優等生的存在。淡々としているがきちんとやっている男。趣味はヨット以外にあまりないそうだがこれから多方面に手を出すそうである。小樽生れのためスキーは相当なもの。実験計画法を卒論に選んで目下奮闘中。卒業後は車屋に勤務が決っている。（原川記）

佐藤雄一郎（進藤ゼミ）

〈大阪学大付属〉背中まるめて、煙草をふかし、寮をねぐらのこの渡世、故郷じゃ父母、どうしているか、可愛いあの娘はどうしたか、こんな社会はぶっつせ、あらゆる孤独に耐え、人間性喪失のこの社会へ人間解放を実現せんとすることは強固な意志と革命的オポチュニズムが必要だ、それにしてはしまってないがやるときはやるだろう。大坂学芸付属出、成績百五十人中百四十九番だったそうな（これは真実性十分）、得意唐獅子牡丹。（高ポウ記）

柴田哲（篠崎ゼミ）

〈芦別〉〈三井鉱山〉彼は寮生であるが寮内に居る時にその存在は寮生全てに認識される。何如なら応接間で鍛えた大声と彼独特のフィーリングによる歌が聞えてくるからである。一面公的な場所では歌えないと云う内気な点もある。しかし何といっても彼の最大の長所でもあり短所ともなっているのは人の良さと云える。他人のペースに引きずられているようでそれが彼のペースにぴったりとはまってくるのである。（山梨記）

渋谷俊彦（岡本ゼミ）

〈札幌南〉〈丸井〉生粋の月寒っ子である。この月寒は種羊場で代表される如く、のんびりした町。この町にも似て彼も一見おっとりしたお坊ちゃん風。しかし、胸に秘めたる静かなファイトはなみなみならぬものがあり、常に努力を忘れぬ男でもある。また一方野球、ダンス等とレパートリーは広い。社会に出て必ずや実力を発揮する男であろう。

執行俊克（伊藤ゼミ）

〈旭川東〉〈大日本インキ〉四年間歌に明け、歌に暮れたよりな男。グリークラブのリーダーとしてその統卒力は目をみはらせるものがあった。一般には押しが強く図々しいように思われているが身体の割に気が弱く消極的な面がある。彼に強気の面が強く押し出されてくればまさに―おれは大物―というところである。又素人の城を脱した書道は彼の知られざる一面である。（川手記）

相馬信行（岡本ゼミ）

〈桜陽〉〈丸井〉温和で優しく女性にモテそうなタイプ。車、パチンコ、麻雀、ダンス、女性と趣味も多方面に渡った多角経営型であるが、特に女性、ダンスに凝っているとか、そういえば、色々なダンスパーティーに顔を出し、ますますその技術に磨きをかけている。しかしそのヤサ男ゆえ、何か気迫に欠けるところがあるのでもっと若々しさを発散するようにしてネ。

菅伸吉（斉藤ゼミ）

〈長生〉彼と二言三言話した者は誰でもカーキチで遊び好き勉強ぎらいの現代っ子だと感ずるにちがいない。生真面目に人生論など話してみてもてんでお話にならない。バカ話しかできないのだ。酒好だ。女好きではないらしいのだがそれでいて女の子にはよくモテる。彼はいつも―俺はバカだ―という。たしかにそうだ。だがそれなのに彼に対してコンプレックスを感ずることがよくあるのはどうしたものか。千葉県出身（荒木記）

杉山広男（西川ゼミ）

〈静岡〉〈三井物産〉ひがみで書く訳ではないが背高ノッポの杉山といえば有名。剣道部で彼にメンをとられると頭の後をしたいでたたかれるから背の低い人は彼と試合をしないそうな。たまにはダンスもするが相手の女性はブラサガッテイルみたいでたまには足をふんずけられたり惨々な目に合うから彼とダンスはしない方がいい。睡眠時間平均十二時間。ゼミの発表で前の晩六時間しかねなかったといって発表中コックリコックリやっているノンキな奴である。（神谷記）

鈴木勝行（岡本ゼミ）

〈桜陽〉ダークスーツの良く似合うカッコいい男。きリッとしまった顔にメガネが良くフィットするスマートな現代青年とは彼のこと。一見ひん弱に見えるがなかなかどうしてここ一番になると本領を発揮する。そして何事にも徹底してぶっかってゆく根性の小樽っ子。将来は先生になる予定のことだがさぞモテるだろうな。女生徒に。勝ちゃんケッパレヤ！（木戸記）

鈴木弘二（進藤ゼミ）

〈静岡〉〈ナショナル金銭登録器〉彼の学生時代のすべては山を媒介としていた。山を媒介として人間追求があった。人間を追求するところから、社会への問題意識が生まれ学生生活の革新もそこに生じたのである。このような彼の姿勢は本当の意味での社会人となるための大きな推進力となるのであろう。彼の残影は、本を小脇にかかえた姿ではない。処女雪を踏みしめる山での姿なのである。（青山賢二記）

鈴木修（石河ゼミ）

〈札幌南〉〈三越〉野球で鍛えたその強健なる身体に似合わず人の良い愛情細やかなりし人物なり。プレイボーイ的要素が無いではないがその女性論、愛情論は古典的正統派に属する。ダンスは名人芸といえる位のセンスを持ち、最近ではギャンブルにもその才能を示している。このいい男にいま一つ押しの強さが加われば天下無敵であろう。

鈴木納（安孫子ゼミ）

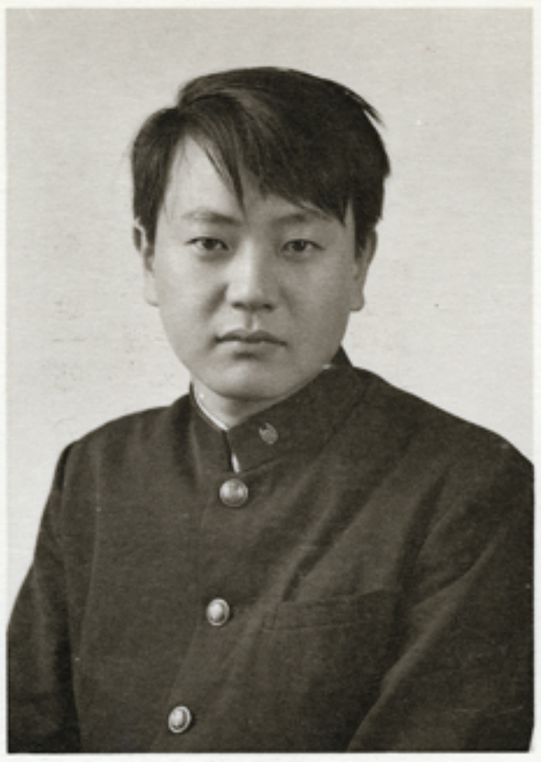
〈旭川東〉〈丸井〉彼を卒直に考察してみよう。"誠実、穏和、貫客、静寂"の語で構成されている統一体である。眼鏡の奥から穏かな知性的な眼がいつも何かを求めている。しかし酒が入ると実に快活、人が変ったように喋り始める。その内容は種々様々やがてそれが終ると深い眠りに陥る。翌日彼の顔は何もなかったような常に変らぬ静かな知恵の人として存在している。彼はそんな人である。（北島記）

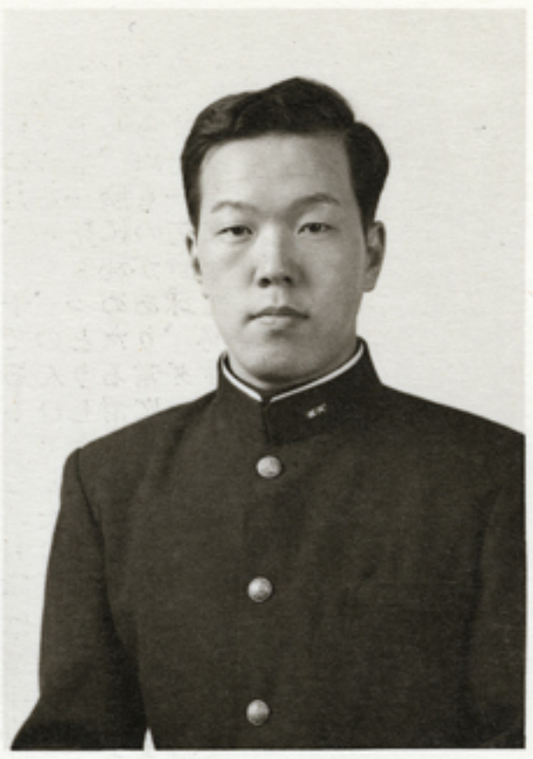
鈴木伸介

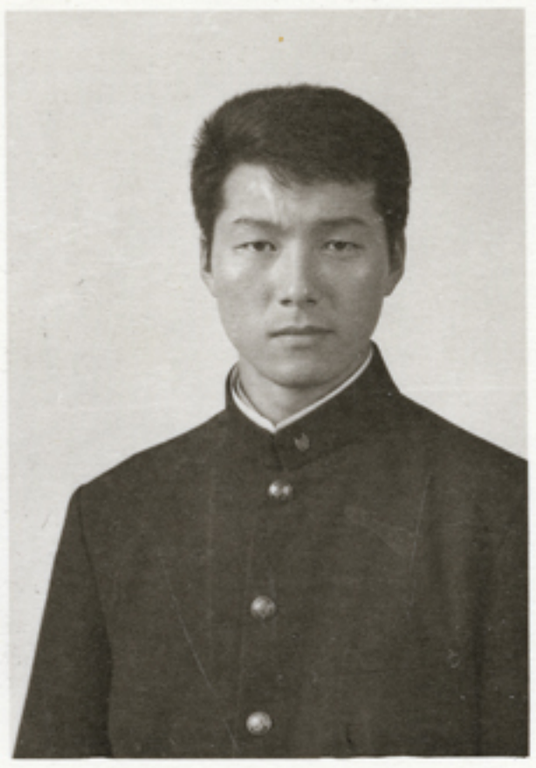
食堂でたまに顔をあわせると"ヤー"とあいさつをかわす。ヒゲの濃いあさ黒い顔しかしよくみるとどことなくカワイラシイ。物静かな人物であるが、大学生活は学問に没頭していたらしい。学研ハダの人間なのかもしれない。閑く所によると彼の部歴は本でうずまっているとか。案外不精なのかもしれない。将来偉人になる人物は歴史的にも他の事を顧みず一つの事のみ専心するのが常であったが彼も同様にその資質をあるいはもっているのかもしれない。それはともかく努力の人である事はまちがいない。（北島記）

田畑智博（安孫子ゼミ）

〈札幌東〉〈中外貿易〉インターナショナルな海。ナショナルな連峰。潮騒の国際主義のアジテーション。山背の国家主義の消却。冷徹な状況のメカニズム。人間群の非存在的存在と明日への不連続線の連続。暗黒の底辺で彷徨する狩人の欧吐は謙譲美徳、忍従の虚飾を無限の彼方に葬り去ろう。白帆を操る狩人は解放の流域を求めて自然性の埋葬を堀り起そう。退路なき状況への投企。間断なき自由は過俗性からの逸脱を可能としよう。そして不断な自答は日常性の克服を索引しよう。発祥の原点への回帰は狩人"非合理"な常軌を歩ませる。







只野宏（ノンゼミ）〈豊多摩〉〈住友銀行〉

遠いアメリカで今頃、何をしているやら。とんと音さたがない。多分彼のことだからうまくやってるだろう。東京出身、スカッとしたスタイリスト、ナイスガイである。一見したところひん弱であるが一本スジが通っている。「君の行く道は、はてしなく遠い、だのになぜ君は……」という歌に感激したという。わかるでしょう。／一九六七・十二・二十二

（K・A記）

高田雅嗣（麻田ゼミ）〈札幌南〉〈兼松江商〉

色男とはまさしくこの人のためにあるのだろう。その容貌スタイル、声の甘さ、一目見彼の話を聞いただけで小樽の女の涙を流すとか。四年間軟式テニス部に所属し、そのバックのフォームの美しさは北海道随一であったろう。勉学とスポーツを立派に両立させた努力は後輩に大きな励みを与えた事だろう。勝負事に対する気持は鋭く時として大勝負をかけるいきごみは彼の顔からは想像も出来ない。

高川武（岡本ゼミ）〈札幌西〉〈ホクサン〉

MODERN-JAZZ

それはこの男にとって夢のように内在する広大な風景。渦巻く不安のように穏かな秘かな形而上的連続性のための乾いた砂の蒸散。地平線に宙吊りにされた半円錐形の音楽あるいは施律。その流れはアルペジョのように唄う泡立つ美しい血潮。くっきりとそれは氷河の苛酷さでこの男の凝視の磁気をさえ帯びている。

高橋隆雄（中川ゼミ）〈三笠〉〈志村交通〉

〝…三笠の山に出でし月かも〟三笠の産。異土にありて遠く故郷に想いを馳せる。故郷なる三笠の山に出でし月は神々しいまでに美しいのである。美は醜に通ず。酒をきらした時の彼はまさに醜である。酒を覚えたのは十二才、その歳盛期は十五才だという。だから今では酒量もほどほど。女の子？　彼の恋人は目下生凾。期待に応えてもう一年。いえいえ彼にはそんな心算は毛頭ないでしょう。

高橋俊衛（麻田ゼミ）〈釧路湖陵〉〈師尾薬房〉

自然を常に新鮮な目で愛好する人物。北海道に就職したのも北海道の自然への愛着があるため、その為か大学時代の勉強では禅の書を良く読み又解し、宗教的問題への関心も強く、どちらかというと普段は沈思黙考型であるが議論になるとなかなか要点をついた意見を盛んに述べる。風貌もなかなかで女性に好かれるタイプであるから将来大いに注意が必要。

（若林記）

鷹木真敬（古瀬ゼミ）〈伊達〉〈日本ソフト〉

寮のヌシ的存在でありながら常に怒りを持って行動する伊達男（伊達の産）。しかしながら、彼も人の子、ネオンの灯が恋しくなるとエッチラオッチラ地獄坂を下ること数度？…でも寮きっての勉強家、メガネの奥に光る瞳は知性のヒラメキと消極性への嫌悪感に満ちているのである。それ程彼は前向きの姿勢を持った男。

（田尾記）

高松謹也（岡本ゼミ）〈札幌旭丘〉〈北洋相互銀行〉

ヨシャパテの谷への旅人。その曖昧な出帆。沸騰点に達することのない液体。重力に必死に抗う液体は凝固する。氷塊のなかに咲く菫色の苑。あわいものはっきりしないものの凍結。蜃気楼のようにいかにも捕え難く、しかも確たる爪跡を残すもの。だが、その疼痛が君をヨシャパテへの永遠の旅人とするのだ。

竹田捷英（安孫子ゼミ）〈函館東〉〈北海道マツダ販売〉

度のキツイ眼鏡の奥に人なつこい目がギョロりと光る。一見するとおとなしい感を与えるのがなかなかどうして。彼の話しぶりはなかみで人を退屈させない。それでいて説得力があるから不思議である。きっとこの手で彼女を口説いたのだろう。

玉木昌一（安孫子ゼミ）〈千秋〉〈日本火災〉

彼について個条書きする。

一　彼の髪は堅くバサッとしていて男性的。

二　性格も案外のんびりしていて今年の教育実習においても落ち着いてユーモアを入れての熱弁は諸先生方の讃辞を浴びた。細かい事には余りこだわらず気持の大きな男。

三　空手部の主将をつとめたのであるが本来は柔道をやりたかったらしい。彼の努力押して知るべし。

四　最近は自動車の運転を覚えた。

五　哲学的な考え方は人をより以上に魅きつけるものである。彼がそんな男だ。

（渡部智記）

田中敦（伊藤ゼミ）〈札幌東〉〈大正海上〉

彼はみるからに円満である。それはなぜか？彼の人格のなせる故か？かといって彼は青年らしい若々しいバイタリティに欠けているというわけでない。酒と剣道をこよなく愛し気さくに話し合えるいい男である。酔うほどに理屈ぽくなるのが玉にキズというところだろう。彼はこの頃とみにカンロクがついてきた。そのわけは……。

（S・K記）

田中良定（伊藤ゼミ）〈札幌西〉〈伊藤忠〉

一見ヌーボーとしているがその落着いた気質の中には内に秘めたる闘志は充分な価値ある男。英語部における地味な活躍はすでに実証済み。地味なタイプだけに潜在能力的人的資産は充分あるファイトマン。女の子にかけてもその「執着力」と「凝集力」はバツグン。文学的、情熱的タイプと地味な活動家タイプの自由自在型。エピソードは表面に出ないが彼の人生観はユニークでおもしろい。

（吉田史記）

団尾延幸（西川ゼミ）〈士別〉〈三井銀行〉

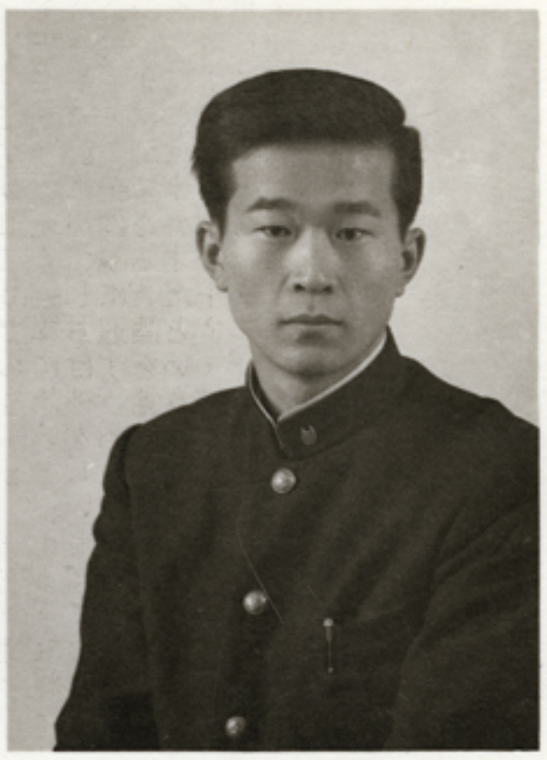
「駅はどこですか？」若い女の人に尋ねられる。一瞬顔を赤らめドギマギする。口吃りながらも親切丁寧に教える。まじめな顔して駅まで連れていってやりかねない。とにかく誰にでも誠実をもって接する。そして帰ってきて「オイスゲエー美人に話しかけられたぞ」と有頂点に語る男である。きわめて自制心が強い。ストイシストである。酒は強い。心中ひそかに静かな激しい情熱を燃す男。困難に出合うたびに成長する男。

（長谷川（要）記）

堅谷寿夫（伊藤ゼミ）〈長野〉〈三越〉

一見紳士風で堅い感じを受ける。ところが実は全く逆の男と言えばちょっとは彼を正しく評価することになるだろう。自ら「酒でうぶ湯を使った」という程だから、その酒豪ぶりも想像に難くない。同じ軟庭部にいて彼の得意としたものは日本一おそい球を打つことであった。そんなところからも本当はとぼけた男であることが分るだろう。

（石川記）



田沢奉興(吉武ゼミ)〈札幌南〉 興亜火災

両親にまず感謝すべき仁。みるからにスマートな好青年。クラブはグリー。ギターを持って歌う低音は仲々。一目見ただけで、女性の方から近よってくるという程。ただ女性とは集まってくるものだという潜在観による安心感から、ときどきより手の早い男に獲物をさらわれることがある。故に課題はより以上の積極性と内面の精進であろう。天全てを与え給ず。目下統計と会計に火を吹いている。

(中前記)

千葉万蔵(岡本ゼミ)〈札幌西〉

汗のなかには、朝やけのようなさわやかさがあった。だが重苦しい疲労の裡に、君は青春そのものを凝縮させる。黙々とひた走る背には、そのような切実さがある。いかにも現代青年らしい行動派。スッキリとした実行力で、スキー、陸上で活躍。性格は明朗快活。足の長さとあいまって相当もてたようだが如何。

津島貴生(伊藤ゼミ)〈潮陵〉 日本通運

歌の文句じゃないけれど、色が白くて背が高く、小枝のような津島くん。目はパッチリとメガネをかけ、子供に好かれる津島くん。お酒も強くマージャン、ダンスも上手な津島くん。さて諸君、ずこし調子がよすぎたようだねェー。実際の彼は羽球、詩吟、ダン研、経営学研究会とを4つもこなし、そのいずれをもおろそかにせず責任を持って活動し部員から親しまれている。クラブ活動の忙しさにもかかわらずサボリ(?)もせず講義は真面目に聞いていた様だ。

(M・T記)

植村勝彦(古瀬ゼミ)〈名寄〉 三菱電気

とにかく、全ゆる事をソツなくこなす能史タイプの男である。特にあの理解力、企画力は抜群で、その口数の多さと共に彼の頭の回転の早さを示している。その有能さが災して人に不快な感じを与える事があるのが唯一の欠点。また運動部のマネージャーとしての経験が実社会に役立つことであろう。

秦記

上野克彦(ノンゼミ)〈会津〉

〃コンピューター革命の担い手〃そう言わざるを得ない程〇。ヨロロ↑。」気狂。彼からそれをとると何も残らない。しかし彼は4年間充実した生活を送ったとのウワサ。数度恋愛しその都度ふり切って(?)自己の信念に従がった。精密機械の徹密な正確さと行動力とで隔絶した自己の世界を常に持ち、特徴ある寂しさをたたえた上野スマイルで人を魅了した。だが彼はいつも一本道を歩いている。

(田尾記)

歌方肇

彼の顔をみると今だに幼なさが残っている。おそらく育ちの良さがわざわいしているのだろう大学生活の前半はかなりウキナを流して歩いていたらしいが、このごろはそのウワサも聞かなくなった。学問に精を出しているのかもしれない。それでもマージャンはやめていないらしい。彼と会うと昨日これだけ勝ったなどと楽しそうに話している。いつも勝っているみたいだけれど?それはともかく、彼の偉大なる点であるヴァイタリティーで将来を切り開いていってほしい。彼にとってはそれも可能である。

(北島記)

若林喬(安孫子ゼミ)〈札幌南〉 共栄火災

雨にも負けず、風にも負けず、雪もなんのそのただ黙々と家と学校の往復学問一筋に生きようとする彼。これはあくまで天が彼に与えた外見にすぎない。現実の彼はパチンコもするし…もする生き生きと日々を送っている人間なのである。すでに将来も決っているとか。まったくうらやましい限りである。とにかく風貌とは逆に精神的、肉体的疲弊を避けて、バイタリティに畳んだ一生を送れる彼なのである。

渡辺誠(安孫子ゼミ)〈美唄東〉 札幌ビール

ボート部を四年間バレー、バスケットをこなし四年目の冬にはスキー部に入部するスポーツマン。一方サークル活動ついには学生運動に手を広げてそとで見せたリーダーシップは彼の飾りのない人間性と共に多くの人の高く評価するところである。そんな彼が多くの女性の憧の的でありながら、反面女性の前では彼の雄弁は全く委縮してしまうなどは誰が信じるだろう。しかしそれは真実なのである。人には弱点は必ずあるという話

久保田記

渡辺智円(麻田ゼミ)〈札幌西〉 進学

渡辺君は浄土真宗の寺院の長男で僧職試験にパスしており、その人柄は誠実で、また学問ことに宗教哲学には深い情熱を燃しており、その勉学に対する態度は真摯である。趣味の第一は将棋であり、最近はダンスにも凝り始めている。中国語を4年間勉強し続けており会話も自由である。卒業後は大学院に進学し、その修了後は海外に身を投じ、人々に心の安ぎを与えることを決意していると聞く。健闘を祈ります。

猿田記

山村精一(久野ゼミ)〈彦根東〉

生れは滋賀の都。琵琶湖の水に育くまれて成長した彼である。極めてスマートで、又それをモットーとして生きている様な男。ダンス、パチンコ麻雀は衆に抜んずる腕とは誰もが認める所である。小樽商大でも非常にエリートコースと思われる久野ゼミに箱を置く彼。将来は学生時代の勉学(?)を生かして…と成るだろう

S・Y記

山梨陽三(篠崎ゼミ)〈清水東〉 中央宣興

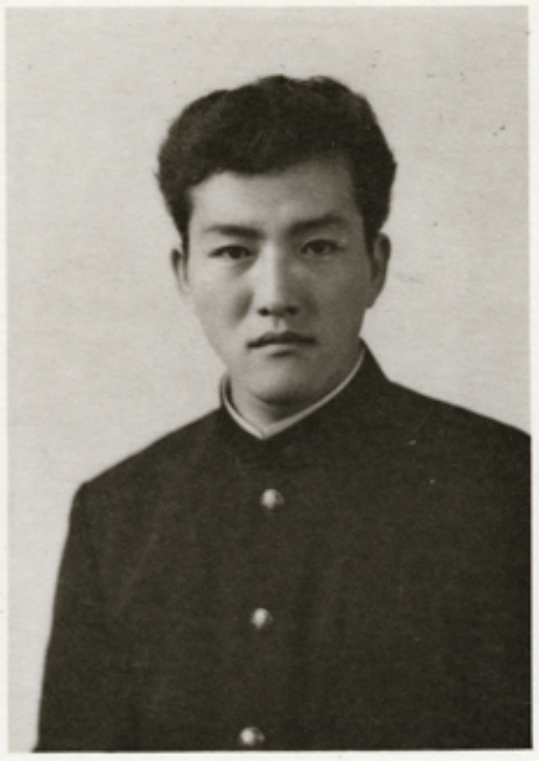
常にはっきりとした態度はその独特の〃まなざし〃と共に知る人ぞ知る。その鎮着冷静な行動は一派の参謀格である。勝負事は「常に勝つという意識をもって望むが、時として一敗地にまみれる事もある。マージャン歴は十年を誇りビリヤードは四ツ玉を最高とする。徹夜に対するタフネスは他の追随を許さない。これぞ誠の期待する人間像である。将来の有望株である。

丸山(雄)記

山崎東一(早見ゼミ)〈旭川西〉 札幌トヨタ

「お酒ちゃん、おそくなって御免ネ…」が彼のオハコであるように酒豪としては上位にランクされている。高校時代から太宰にこってたと言うにふさわしく、彼の生き方にそんなところも何となく見受けられるようである。ムッツリしたり、眼鏡の奥から可愛いらしいおメメをパチクリさせたり、何も考えずに何となくその日を生きるのが彼の、信条でもあるようだ。

石本記



Coca-Cola

山崎経民（安孫子ゼミ）

〈落　合〉今井金商

四年の間、ベースを乱さず自己の道を進んだ男。マージャン、パチンコは独得なテクニックの持主。本職（？）のビンボンもかなりサエている。ただし試合の前日アルコール類が入りすぎない時のみ。三年目より寮に入ったが一向にその生活は乱れず、毎日下山をくり返えし、身体つくりに専念している。そろそろ岡山弁も抜けたが、時々とびだす〝わしら〟はどうもやめられないらしい。

矢野香江子（早見ゼミ）

〈赤　平〉一ッ橋大研究所

万緑中の華美な紅いバラは「きぐらい」ばかり高く「こころ」がないという。数少ない女子学生ではあったがそんな彼女では決してない。誠実思いやり淡白こそ彼女のモットー。頭から足のさきまで茶色でおおい、いとまろき（？）額を知的に輝せ一見毛沢東風のコートを愛用してたまあに学校にも顔を出す。マックスウエルとかいう（コーヒーの名のようやらその他ゴチャゴチャの書棚の前に座ってるのが一番落着らしい。4年生の女子学生の中では一・二を争う美女と聞く。（佐藤のり子記）

長谷川　要（麻田ゼミ）

〈旭川西〉伊藤　忠

かっては純情可憐な彼は、それ故に花も実もある時期があったという。ジャカイモを食らい育った旭川の片田舎右向けば彼の云う美人（女性であれば〇K）が彼を旭川の天才児ともてはやし、左向けば隣の〝ミヨちゃん〟が「かなめちゃん」とウインクし、その都度断るのに寝る時間もなかったという。そのなれの果今は彼にフリ向く物好きな女性はいない。タマに振り向ても一緒に歩いてくれる私の方であって彼ではないらしい。しかし彼の誠実さとどんな環境におかれても自己を失わない頼しさを世の女性はいつまでもほうっておくはずはない。（田尾記）

池田昭次（安孫子ゼミ）

〈月　寒〉合同酒精

精悍剛毅しかもやさしくて親切。この男を学生時代に知り得たことは一つの幸福だと思う。積極的な進取の気構えと鋭どさを合わせ持つこの男を採用した会社は一つの獲得をしたことであろう。ただ今のところ鋭どさが前面に出すぎるので参謀格に見えるが、それにもう一つ柔みが増すと十分な長の器である。

これからの働き振りをじっくりと見つめていたいと思われる人間の一人である。（泉記）

黒田健夫（久野ゼミ）

〈札幌東〉興亜火災

見かけはむっつり。一緒に酒を飲む。面白い。実に面白い。話せば彼の人間味がにじみでる。酒を愛でる。ゼミ一強い。酒け飲めば論じる音楽論云々。チャイコフスキーを好む。またさらに旅を好む。沖縄にも行ってきた。何か楽しいことがあったらしい。しばらくはニヤついていた。めずらしいことがあると思った。非常につきあいのいい奴だ。つき合えばつき合う程彼のよさがわかってきた。（野木（養）記）

吉田史旦（伊藤ゼミ）

〈札幌西〉東洋綿花

火曜日321番教室が勢いよく開かれ「オッス」という声と共にさっそうと現れる男。口がたつ。次から次へとポンポンと冗談や真面目な話やら目を白黒させながら身振大きく話す。パチンコ、麻雀、玉突、等賭け事は一切駄目。これだけ聞けば優等生。ところが全く違う。札幌市内のダンスホールを写真を持って回って見たまえ。その名も知られた〇〇キラー。常時レギュラー数名のGirlを曜日が変る毎に取り変ひっかえ。いや全くGirlの好きな男は忙しい。（酒井記）

水尻賢治（石河ゼミ）

〈緑　陵〉教　員

林子の古里、余市からショルダーバックを肩にエッチラオッチラ地獄坂を登ってくる勤勉家。ゼミナール一の俊才なり。一見神経質そうだが会計士を目ざす意志強固なマジメ人間である。いずれ会計士として皆様の前にお目見えするでしょうがその節は御引いきに。

茂木　武（久野ゼミ）

〈函館商業〉

敬虔なるクリスチャン。哲学的風貌の小さな体に太い眼鏡をかけた彼の姿は人全への真摯態度がうかがわれる。実存主義とマルクス主の研究にも深い造詣を持っていると聞く。悠迫らぬ彼の態度はまさに哲人のそれである。が彼も人の子、寮から下ってデイトもするし燈の下に酔うことも多々ある。最近はパチン、麻雀も習い始めたとか。しかし彼をして彼らしめるものは変らない。（観野記）

尾田将公（伊藤ゼミ）

〈桜　陽〉三菱銀行

品行方正学歴優秀といえば商大ではすぐわかるくらいの真面目青年である。この顔をみてもそれはすぐわかるであろう。が知る人ぞ知るとは良く云ったもので彼も四年目になり、各方面に手を広げて、all roundな力を身に付けようとしている。特に中国語の権威者になろうと日夜それの勉強に精を出している。all roundな力をつけたときが彼が社会人としても一人前の時であろうという期待をもって彼を見守っていようと思う。

小樽市産業会館
名店街
名店街
岡本病院

佐々木 憲 昭　（安孫子ゼミ）
＜函館商業＞　進学

この男に対する見方は多くの人の中で驚く程一致している。いわく真面目、堅実、静、インテリ、……、そしてその認識は誤まっていない。しかし彼のその静かな容貌の中に脈々と波うつ熱い情熱とそれを基礎に行なわれた急激な内面的変化を正しく評価している人は少ないのではないだろうか。カトリックから唯物論への思想的変革。同時に行なわれた豊かな人間性への脱皮。そんな大学生活における彼の内面における変化を大学院へ進む将来へどう継続発展させていくのか期待する。

（久保田記）

上 原 幸 則　（早見ゼミ）
＜諏訪清陵＞　日産火災

彼はモテナイと極論するヤカラが多いが、実はそれはやっかみであり、彼ほどもてる幸せな男はいない。すでに同期生のトップバッターとして、未来の生活設計もできているとか？彼は強い個性と人あたりの柔らかさで回りの人達を吸収してしまう。（そこが彼女のマイッタ点らしい。）玉にキズは一本のビールで顔を真赤にし、キクに耐えない調子はずれの歌をうたうことだが不思義にも未来の奥さんの前ではどうにか歌になるあたり彼の面目躍如たるものである。

（田尾記）

安 田 繁　（竹内ゼミ）
＜桜陽＞　北海道相互銀行

竹内ゼミナールで一番のスタイリストと称している御人。趣味はギターにダンスそれに強い（？）碁と多種に渡る。北海道に緑があるとみえ就職してからも北海道に残るらしい。そのためか小樽の街を夜々カップルにて出没するとのウワサがある。パチンコの方もなかなかのものである。目下卒論のための消費関数に取り組んでいるが語学に悩まされているとのこと。就職は金貸業に勤務の予定。小樽の産。

（原川記）

宮 城 勝　（岡本ゼミ）
＜首　里＞

ボート部のモサ。ボートで鍛えた身体は見事なもの。日頃の不節制がたたっているせいか最近は一寸……ね？ボートだけでなく、マンドリンも弾くあたり中々良い趣味をもっている。一見遊んでばかりいるように見られる不幸な男であるが以外と勉強もやり、遊びと両立させた模範的学生である。

片田野 幸 正　（篠崎ゼミ）
＜群馬太田＞

ポーズを取っているのか、それが地金かあまりわからない。クールな人間かも？　女の子には何とかスケベで興味大いにあり。可成りの色男（自称）。他称はそうは思わない。何となくボンヤリ要領良く過す人間。

6202
DUC

卒　業　式

卒業生諸君

久野　光朗

諸君達の輝かしい門出にあたって、実社会へ入っていく諸君達の心がけに関し、ひとこと希望を述べ、お祝いの言葉にかえたいと思います。

率直にいって、諸君達は喜びにみちた期待と、いちまつの不安を抱いていることでしょうが、これまで体験したことのない未知の生活を迎えるわけですから、それに対する期待と不安は誰しもが持っていることと思います。

これから先の諸君達の生活においては、政治的・経済的・社会的な各種の面から数多くの挑戦を受けるはずです。そして、諸君達は、その挑戦に対応していかなければなりません。しかし、その対応のあり方として、いたずらに受け身になってはいけません。それは、あくまでも創造的対応でなければいけません。そのためには、たんに個別資本の運動だけに眼を奪われることなく、たえず総資本の運動にも眼を向けていることが必要です。また、その日暮らしの安易な生活におちいることなく、すくなくとも10年単位で物事を考え、かつ仕事をしていくだけの心構えが必要です。

最後に、短い人生を正常に楽しくすごすため、まず健康を保持するとともに、一生を通じて実行できる趣味もしくはホビーを身につけておくようおすすめします。